

スヘシ其ノ要求ヲ受ケタル鎮守府司令長官ハ等四十條ニ依リ工事ヲ處理スヘシ

等四十二條 艦船航海中修理或ハ引換ノ工事ヲ要シ其ノ性質艦船ノ安危ニ關シ或ハ航行ヲ妨クル

等ニシテ第三十五條若ハ第四十一條ニ依ルコト能ハサルトキハ艦隊司令長官司令官若ハ艦船長

令官ノ所在ニ道隔ナルトキニ於テ便宜之ヲ處理シ其ノ理由明細書ニ工事日數入費明細書ヲ添

ヘ本籍鎮守府司令長官鎮守府ノ直轄ニテラサレニ報告シ鎮守府司令長官之ヲ海軍大臣ニ報告

スヘシ

第四十三條 鎮守府司令長官所屬造船廠工事ノ都合ニ依リ艦船ノ修理等ヲ私立製造所ニ依リ托セン

トスルトキ又ハ第三十七條ニ依リ既ニ認可ヲ得タル工事ヲ他ノ海軍造船廠ニ移サントスルトキ

ハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケルヘシ

第四十四條 鎮守府司令長官軍艦及水雷艇ノ修理等第三十七條ニ依リ認可ヲ著手セシメタルト

キハ竣工期日ヲ記シ又著手後其ノ期日ニ異動ヲ生シタルトキ及其ノ工事竣工シタルトキハ其ノ

都度海軍大臣ニ電報スヘシ私立製造所ニ工事ヲ依リ托シタルモノ亦同シ

第四十五條 艦船備附ノ艇舟ヲ増備若ハ引換ノ爲メ製造スルトキハ軍費中ノ艦船ノ修理費ヲ以

テ支辨シ第二十四條乃至第二十九條ヲ適用シ其ノ船種若ハ寸法ヲ變更シタルモノニ在テハ尙ホ

第三十條第三十一條ヲ適用ス但都國校屬附屬ノ船舟ニ在テハ修理費ヲ以テ引換製造スルコトヲ

得ス總テ第二章ニ依ルヘシ

第四章 艦船ノ著色著標

第四十六條 艦船外舷ノ塗色ヲ左ノ通定ス

第一種軍艦及之ニ附屬スル船舟

水雷艇及之ニ附屬スル船舟

右鼠色

第二種軍艦ニ附屬スル船舟

御召汽艇、端舟

鎮守府司令長官司令官及要港部司令官兼用汽艇端舟要港部ノ水雷敷設隊及水雷艇隊附屬ノ

端舟

海兵團、水雷團、諸學校附屬ノ端舟

右白色

第二種軍艦

要港部ノ水雷敷設隊及水雷艇隊附屬ノ船舟端舟ヲ除ク

海兵團、水雷團、諸學校附屬ノ船舟端舟ヲ除ク

水路部、軍港部及要港部ノ知港事附屬ノ船舟

右黑色

軍艦及水雷艇ニシテ戰時事變等ニ際シ臨時外舷ノ塗色ヲ變更シタルトキハ其ノ旨鎮守府司令長

官若ハ艦隊司令長官又ハ司令官ヨリ海軍大臣ニ報告スヘシ

第四十七條 艦船ノ檣桁煙筒其ノ他ハシモツク、ネツチンダノ覆以上ハ第一種軍艦及水雷艇ニ在テ

ハ總テ鼠色第二種軍艦及雜役船舟ニ在テハ之ヲ黃色トシ「ハンモック、ネツチンダ」ノ覆以下ニ於テ

外舷ニ附著シアルモノハ總テ外舷ト同色トス又煙筒ノ頭部ハ其ノ直徑楕圓形ノモノニ在テハ楕圓

ノ三分ノ一マテノ深サヲ黑色トス但煙筒二本以上ヲ有シ其ノ直徑各異ナルトキハ總テ最大直徑

ノ黑色部ト同一ニナスヘシ

第四十八條 外舷ノ塗粧ハ鐵鋼ヲ露シタル艦艇ニ在テハ水面上左ノ三點ヲ通過スル弧線ニ於テ止

メ雜役船舟ニ在テハ水面上適宜ノ所ニ於テ止メ而シテ該線下ヨリ防蕪塗料ヲ施スヘシ又包底艦

船ニ在テハ包板ニ於テ止ムヘシ

軍艦、水面上ノ高サ

中央部	船ノ幅ノ三十分ノ一
前部	船ノ長サノ三分ノ一ニ中央部ノ高サヲ加フ
後部	中央部及前部ノ高サノ平均
中央部	艦ノ幅ノ二十五分ノ一
前部	艦ノ長サノ三分ノ一ニ中央部ノ高サヲ加フ
後部	中央部及前部ノ高サノ平均

水雷艇、水面上ノ高サ

前部	艦ノ長サノ三分ノ一ニ中央部ノ高サヲ加フ
後部	中央部及前部ノ高サノ平均

第四十九條

軍艦ハ總テ舷側外面ノ上部ニ於テ成ルヘク艦首ヨリ艦尾マテ連続シタル處ニ外舷線

外舷線ノ幅ハ二千噸以上ノ艦ニ在テハ二百ミリメートルニ二千噸未満ノ艦ニ在テハ百五十

リメートルトシ第一種軍艦ハ黒色第二種軍艦ハ白色トス

第五十條

同形軍艦ハ之ヲ識別スル爲メ先ニ竣工シタルモノヲ除キ竣工ノ順序ニ依リ外舷線ノ

色ヲ左ノ通變更シ之ヲ同形艦ノ識別線トシ鎮守府司令長官ハ所管軍艦ノ識別線ノ色ヲ海軍大臣

ニ報告スヘシ但先ニ竣工シタルモノハ外舷線ヲ以テ識別線トス又第一種軍艦ト第二種軍艦ト同

形ナルトキハ識別線ヲ要セス

青

黒複線 第二種軍艦ニ在テハ白複線

赤複線

青複線

複線ノ幅ハ二千噸以上ノ艦ニ在テハ百ミリメートルノモノニ條ヲ百ミリメートルヲ隔テ三百ミリメートルトシ二千噸未満ノ艦ニ在テハ八十ミリメートルノモノニ條ヲ八十ミリメートルヲ隔テ二百四十ミリメートルトシテ施スモノトス

第五十一條 艦船ハ其ノ喫水ヲ標識スル爲メ艦船首尾ノ兩舷ニ喫水標ヲ附スヘシ

喫水標ハ船脊骨下面ノ直線部ヲ前後ニ延長シタル線ヲ基礎トシ船首ニ於テハ船首骨ノ前面ト計

畫水線ト交叉シタル點ニ於ケル垂線ノ高サヲ測リ船尾ニ於テハ船尾骨ノ後面ト計

最モ深ノ最深點ニ於ケル垂線ノ高サヲ測リ船首骨及船尾骨ニ在テハ前船尾骨ニ沿フテ計畫水線

以上二呎マテ六呎ノ羅馬字ヲ以テ喫水一呎毎ニ一呎毎ノ喫水線ヲ標識スヘシ但舵其ノ他推進螺

旋等ニシテ本文ノ基礎線ヨリ下ニ垂下スルモノアルトキハ船尾ノ喫水ハ其ノ垂下物ノ最下端ニ

於ケル垂線ノ高サヲ測リ船尾骨ニ沿フテ標識スヘシ

第五十二條 軍艦ハ艦首正面ニ徽章トシテ金色ニテ御紋章ヲ附著スヘシ

第五十三條 軍艦名及水雷艇名ハ平假名船名ハ漢字ヲ以テ左ノ箇所ニ右ヨリ始メ横ニ附著スヘシ

其ノ書體及寸法ハ鎮守府司令長官之ヲ定メ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

軍艦及雜役船ハ艦船尾ノ最後面又ハ艦船尾兩側ノ見易キ箇所

水雷艇ハ中央部ノ兩舷外及艇尾ノ最後面又ハ艇尾兩側ノ見易キ箇所

軍艦名ノ文字ハ金色水雷艇名ハ黒色船名ハ白色ニ在テハ黒色トナスヘシ

水雷艇ニシテ戰時事變等ニ際シ外舷ノ塗色ヲ變更シ艇名文字ヲ識別シ難キトキハ適宜鮮明ナル

塗色ニ改メ其ノ旨鎮守府司令長官ヨリ海軍大臣ニ報告スヘシ

第五十四條 軍艦備附ノ艇舟及水雷艇備附ノ端舟其ノ他ノ汽艇端舟ノ司令官用ヲ除クニハ其

ノ所屬ヲ識別スル爲メ目標ヲ附ス其ノ目標ハ本艦艇及所屬部團校廳名ノ平假名頭字一字

十ミリメ、或ハ二字十ミリメトシ船頭ノ兩舷ニ附著スヘシ其ノ色ハ艦長用端舟ハ金色其

ノ他白色ノ船舟ハ黒色、黒色ノ船舟ハ白色トシ其ノ文字及書體ハ軍務局長ヲシテ之ヲ定メ

シム

公稱番號ヲ附シタル水雷艇備附ノ端舟ニハ第五十五條第三項中雜船ノ例ニ依リ本艇ノ公稱番號

ヲ舟頭ノ兩舷ニ附著スヘシ
司令長官及司令官乗用ノ汽艇端舟ハ該官相當ノ旗章圖 海軍旗章條例ニ依リ艦ニヲ目標トシテ船
舟頭ノ兩舷ニ附著スヘシ
第五十五條 雜役船舟ニシテ名稱ヲ附スルヲ要スルモノハ鎮守府司令長官之ヲ定メ海軍大臣ノ認
可ヲ受クヘシ
名稱ヲ附セサル水雷艇 軍艦ニ搭載ス 及雜役船舟ニハ軍務局長ヲシテ公稱番號ヲ附與セシム
公稱番號ハ水雷艇ニ在テハ第五十三條艦名ノ例ニ依リ汽船及端舟ニ在テハ船内適宜ノ箇所ニ共
ノ他ノ雜船ニ在テハ船首ノ兩舷ニ漢字ヲ以テ右ヨリ始メ横ニ附著スヘシ其ノ色ハ第五十四條目
標ノ例ニ依リ文字ノ寸法ハ鎮守府司令長官適宜之ヲ定ムヘシ
第五十六條 艦船内諸室諸倉庫ノ名稱左ノ通定メ必要ノ箇所ハ其ノ名稱ヲ眞鍮板ニ標記シ附著ス
ヘシ又左ノ名稱外ニ場所ヲ要スルトキハ鎮守府司令長官其ノ名稱ヲ定メ海軍大臣ノ認可ヲ受ク
ヘシ

- | | | | |
|--------|----------|---------|---------|
| 將官室 | 將官公室 | 將官寢室 | 參謀長室 |
| 參謀室 | 參謀長事務室 | 艦隊航海長室 | 艦隊機關長室 |
| 艦隊軍醫長室 | 艦隊主計長室 | 將官祕書室 | 將官祕書事務室 |
| 艦(船)長室 | 艦(船)長事務室 | 艦(船)長寢室 | 副長室 |
| 航海長室 | 砲術長室 | 水雷長室 | 機關長室 |
| 分隊長室 | 軍醫長室 | 主計長室 | 軍醫官室 |
| 主計官室 | 士官室 | 士官次室 | 機關官事務室 |
| 主計官事務室 | 士官病室 | 藥劑室 | 准士官室 |
| 掌砲長室 | 掌水雷長室 | 藥劑室 | 兵曹長室 |

- | | | | |
|----------|----------|---------|---------|
| 上等兵曹室 | 機關兵曹長室 | 上等機關兵曹室 | 船匠長室 |
| 船匠師室 | 信號長室 | 軍樂長室 | 筆記長室 |
| 先任衛兵伍長詰所 | 下士室 | 兵員病室 | 將官食器室 |
| 艦(船)長食器室 | 士官食器室 | 士官次室食器室 | 准士官食器室 |
| 士官浴室 | 士官次室浴室 | 機關官浴室 | 准士官浴室 |
| 機關兵浴室 | 兵員浴室 | 士官次室洗面所 | 士官廁 |
| 士官次室廁 | 准士官廁 | 士官糧食庫 | 禁錮室 |
| 將官糧食庫 | 艦(船)長糧食庫 | 火藥庫 | 士官次室糧食庫 |
| 准士官糧食庫 | 糧食庫 | 小銃彈藥庫 | 彈庫 |
| 速射砲彈藥庫 | 機砲彈藥庫 | 火酒庫 | 米庫 |
| 麵粉庫 | 氷庫 | 帆庫 | 氣發油庫 |
| 網庫 | 鎖庫 | 測器室 | 塗具室 |
| 燈具室 | 石炭庫 | 操舵室 | 經線儀室 |
| 海圖室 | 軍樂器室 | 水雷頭庫 | 發電機室 |
| 水雷室 | 水雷庫 | 水雷要具格納所 | 空氣壓榨機室 |
| 反裝水雷室 | 發火電鑰室 | 汽機室 | 綿火藥庫 |
| 爆發藥庫 | 筆記事務室 | 兵器工場 | 汽罐室 |
| 副汽罐室 | 機關工場 | 火藥庫燈室 | 水雷工場 |
| 鍛冶工場 | 木工工場 | 小銃彈藥庫燈室 | 彈庫燈室 |
| 速射砲彈藥庫燈室 | 機砲彈藥庫燈室 | 將官烹炊室 | 火酒庫燈室 |
| 氣發油庫燈室 | 水罐室 | | 士官烹炊室 |

兵員炊炊室
掌砲科要具庫
船匠科要具庫
薪炭庫

廚室
掌水雷科要具庫
信號旗格納所
石炭糞格納所

物品交附室
掌帆科要具庫
大砲廢物格納所

主計庫
機關科要具庫
端艇軍裝要具格納所

第五十七條 艦船ノ船内及上甲板上下部凡ソ四百「ミリ」ノ塗裝並ニ室内ニ施ス塗料ハ總テ白色トシ鐵鋼製ノ船口縁及上甲板上ノ内舷下部凡ソ四百「ミリ」ノ塗裝並ニ室内ニ施ス塗料ハ總テ白汚レ易キ部分ヲ錆色トス但船内ト雖モ汚レ易キ部分ハ錆色ニ爲スコトヲ得

第五十八條 艦船用諸管ハ總テ第六號表ノ通著色區別スヘシ

第五章 汽機、汽罐試驗

第五十九條 艦船ノ新製汽機汽罐竣工シタルトキ及修理若ハ改造ヲ加ヘタル汽機汽罐ニシテ試驗必要ト認ムルトキハ左ノ試驗ヲ行フヘシ但水管式汽罐等ノ如キ特種ノ構造ニ係ルモノハ各其ノ製造方法書ニ依ル

- 一 水壓試驗ハ汽罐ノ計畫汽壓六「キログラム」以內ノモノニ在テハ之ニ二倍スル水壓力六「キログラム」外ノモノニ在テハ之ニ六「キログラム」ヲ加ヘタル水壓力ヲ以テ施行スヘシ又汽力試驗ハ都テ計畫汽壓ヲ以テ施行スヘシ
- 二 修理若クハ改造ヲ加ヘタル汽機ニシテ向來計畫汽壓ニ耐ヘサルモノト認ムルトキハ本罐ノ耐フヘキ最大汽壓ヲ測定シ而シテ其ノ汽壓六「キログラム」以內ナルトキハ之ニ二倍スル水壓力又六「キログラム」外ニ在ルトキハ之ニ六「キログラム」ヲ加ヘタル水壓力ヲ以テ試驗スヘシ又汽力試驗ハ測定汽壓ヲ以テ施行スヘシ
- 三 小修理ヲ加ヘタル汽罐ノ水壓試驗ハ計畫汽壓六「キログラム」以內ノモノニ在テハ其ノ一倍半六「キログラム」外ノモノニ在テハ之ニ二「キログラム」ヲ加ヘ施行スルコトヲ得

四 高壓汽筒及最大壓力ニ耐フヘキ器械及管類ハ第一項ノ汽罐ニ施ス水壓力ト同壓力復水器ノ觸汽部及抽氣唧筒ハ每平方「センチメートル」ニ二「キログラム」又復水器ノ接水部ハ每平方「センチメートル」ニ一「キログラム」ノ壓力ヲ以テ各水壓試驗ヲ行フヘシ但新製ノモノニシテ製造方法書中ニ特ニ記載シタル場合ハ此限ニアラス又中壓及低壓汽筒汽衣ノ水壓試驗ハ機關計畫ノ方法ニ基キ適宜壓力ヲ定メ之ヲ行フヘシ

第六十條 水壓試驗中罐體各部ヲ精密ニ檢査シ若シ變形ノ箇所アルトキハ之ヲ精測シ全ク點檢ヲ終ルニアラサレハ必ス試驗定度ノ壓力ヲ減降スヘカラス其ノ時間ハ凡ソ五分乃至十分間トス

本條檢査ノ法ハ未タ壓力ヲ施サ、ル前ニ於テ罐體外面ノ狀況ヲ熟視シ且適宜ノ計器ヲ以テ豫メ火爐及燃局ノ内部兩板相對スル距離或ハ罐體ノ外面扁平ノ部分等ノ尺度等ヲ精密ニ測リ然レ後壓搾唧筒ノ運動ヲ始メ壓力既ニ定度ニ昇到スレハ壓力ノ減降セサルコトニ注意シ前ニ測リタル部分ノ尺度等ヲ精密ニ檢査スヘシ

第六十一條 水壓試驗中水壓力未タ試驗ノ定度ニ昇ラズシテ罐體ニ治スヘカラサル不完全ノ兆候ヲ顯ストキハ直ニ試驗ヲ停止スヘシ而シテ計畫汽壓六「キログラム」以內ノ汽罐ニ在テハ不完全ノ兆候ヲ顯シタルトキノ水壓力ノ五分ノ二ヲ超ヘサル汽壓力又六「キログラム」外ノ汽罐ニ在テハ不完全ノ兆候ヲ顯シタルトキノ水壓力ヨリ六「キログラム」ヲ減シタルモノヲ超ヘサル汽壓力ヲ以テ本罐ニ使用スヘキ汽壓力ト定メ安全弁ヲ處置スヘシ然レトモ水壓試驗ノ結果ニ依リ計畫汽壓ノ三分ノ二ヨリモ尙ホ低弱ナル汽壓力ヲ使用セサルヲ得サルトキハ其ノ汽罐ハ修理ヲ加ヘスレテ使用スルコトヲ得ス但修理ヲ加ヘタルトキハ再ヒ水壓試驗ヲ行フヘシ

第六十二條 汽罐安全弁ノ彈機ノ試驗ハ汽罐壓力ヲ本弁ノ面積ニ乘シタル重量ヲ以テ之ヲ壓搾シ

其ノ縮短ノ寸度ハ成ルヘク本舟ノ直徑ヨリ少ナカラサルモノヲ撰ミ又之ニ前記重量ノ百分ノ二
十五以内ノ重量ヲ増加シテ本舟ノ直徑四分ノ一ニ等シキ寸度ヲ増縮シ然ル後重量ヲ放ツトキハ
原狀ニ復シ更ニ長度ニ差違ヲ生セサルモノヲ以テ合格ト定ムヘシ但彈機ノ裝置壓搾セスシテ延
長スルノ製ナルトキハ本條ノ方法ト反對ニ延長スヘシ

第六十三條 汽罐試驗済ナルトキハ左ノ如キ眞鍮製ノ證書ヲ罐體適宜ノ位置ニ附著スヘシ
本票ハ長徑百「ミリメートル」短徑七十六「ミリメートル」厚サ三「ミリメートル」鉄ハ鐵製ニテ六「ミ
リメートル」トス



第六章 重心點試驗

第六十四條 艦船左ノ場合ノ一ニ該ルトキハ鎮守府司令長官造船廠長ヲシテ該艦船ノ重心點試驗
ヲ施行セシムヘシ但端舟其ノ他小形雜種船ニ在テハ此限ニアラス

- 一 艦船ノ製造竣工シタルトキ
 - 二 船體ニ著シキ改造ヲ加ヘ若ハ搭載物ノ重量配置ニ著シキ變更ヲ加ヘタルトキ
- 前項第二ノ場合ニ於テハ其ノ改造及變更ニ因リ從前ノ重心點ニ異動ヲ生シ試驗ヲ必要ト認ムル

トキニ限り施行スヘシ

第六十五條 重心點試驗ノ成績ハ第七號様式ニ依リ之ニ「メ」セントリ「ク」ダイアグラムニ及滿載
常備 輕荷ノ三狀態ニ於ケル復原力曲線ヲ添ヘ海軍大臣ニ報告スヘシ

第七章 艦船檢査

第六十六條 艦船ノ檢査ハ左ノ二種トス

- 定期檢査
- 總檢査

第六十七條 定期檢査ハ艦船ノ製造竣工シテ授受ノ後毎年春秋兩期ニ於テ施行スルモノトシ艦船長
軍港部長水雷艇所屬長ハ部下ノ人員ヲシテ船體各部ノ容易ク檢査シ得ヘキ箇所ヲ精密ニ檢査セ
シメ第八號様式ニ依リ其ノ狀況ヲ詳記シ本籍鎮守府司令長官ノ「各府ノ直轄ニアラサルモノ」ニ報告
シ鎮守府司令長官之ヲ調査シ意見アラハ之ヲ添ヘ春期ハ三月三十一日秋期ハ九月三十日ヲ限リ
海軍大臣ニ進達スヘシ但船體ノ各部ヲ同時ニ檢査シ難キトキハ其ノ期間便宜ノ時ニ於テ各部ヲ
徐々ニ檢査スルモ妨ケナシ

第六十八條 總檢査ハ艦船ノ製造竣工シテ公試結了ノ月及前總檢査ノ修理等ノ工事竣工シテ公試結了
ノ月ヨリ艦船體ハ滿八箇年乃至十二箇年目機關ハ每四箇年目ニ施行スルモノトス然レトモ定期
檢査及其ノ他ノ狀況ニ依リ必要ト認メタル時ハ右年限ニ至ラサルモ臨時施行スルモノトシ艦船
長軍港部長若ハ水雷艇所屬長ハ之ヲ所管長官ニ具申スヘシ艦隊司令長官各學校長部下艦船長ヨ
リ前項ノ具申ヲ受ケ之ヲ至當ト認メタルトキハ其ノ艦船ノ本籍鎮守府司令長官ニ要求スヘシ

第六十九條 鎮守府司令長官艦船總檢査ノ具申或ハ要求ヲ受ケ之ヲ必要ト認メタルトキハ造船廠
長ヲシテ調査セシメ豫算定額ノ範圍内ニ於テ其ノ緩急ヲ量リ檢査理由書ニ檢査日數及檢査費概
算書ヲ添ヘ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ該艦船ヲ入渠セシメ檢査ノ妨トナルモノハ總テ之ヲ取除キ内

板ヲ撤去シ且時宜ニ依リ汽機汽缸ヲモ取除キ塗具及「セメント」等ヲ削去シ水壓力ヲ要スル箇所
 ハ之ヲ用ヒ造船廠員ヲシテ船殼鐵裝汽機汽缸等ヲ精密ニ検査セシメ其ノ狀況ヲ詳記シ海軍大臣
 ニ報告スヘシ其ノ検査ニ依テ必要ト認メタル改造新設引換及復舊修理ハ第三十七條ニ依リ總テ
 海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ又其ノ艦船他ノ鎮守府在籍ナルトキハ第四十條ノ手續ヲ爲スヘシ
 第七十條 艦船第六十八條ニ定ムル期間ニ於テ老衰腐朽等ニ傾キ今後航海ノ役務ニ堪フルノ見
 込ナク總検査ヲ施行スルノ價值ナキモノト認ムルトキハ本籍鎮守府司令長官其ノ理由ヲ海軍大
 臣ニ具申スヘシ

第七十一條 鐵鋼艦船ハ六箇月乃至十二箇月ニ一度入渠シ其ノ底部ヲ検査シ塗換ヲナスヘ
 シ銅板或ハ亞鉛板等ヲ以テ底部ヲ包被シタル艦船ハ六箇月毎ニ潜水者ヲシテ其ノ底部ヲ検査セ
 シムヘシ其ノ他艦船長等ハ定期検査ノ期ニ至ラサルモ常ニ船體機關各部ノ狀況ヲ詳知シ其ノ保
 存ニ注意シ不長ノ虞ヲ發見スルトキハ充分ニ之ヲ検査シ速ニ修補ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十二條 水雷艇ハ四箇月乃至六箇月ニ一度入渠若ハ上架シ其ノ底部ヲ検査シ塗換ヲナスヘシ
 艇長及其ノ所屬長ハ塗換ノ期ニ至ラサルモ艇體不長ノ恐レアルトキハ速ニ検査ヲ請求スヘシ
 第七十三條 左ノ各項ハ艦船保存上殊ニ必要ノモノニ付艦船長等ハ定期検査ノ際最モ能ク之ニ注
 意シ第六十七條ノ報告表ニ記載スヘシ

- 一 鐵鋼艦船内ノ汚水ニ浸サル、諸管ハ都テ完全ニ塗料ヲ施シアルヤ又銅及黃銅管ハ塗料ノ上
 ニ包被シタル帆布及其ノ表面ノ塗料共ニ堅牢完全ニシテ水ノ浸徹スルコトナキヤ又鉛管ノ
 近傍ニ於ケル底部ノ塗料及「セメント」ハ充分堅牢ナルヤ
- 二 鐵鋼艦船ニ用ヒタル青銅又ハ黃銅製ノ推進螺旋ハ其ノ艦船底下同一ノ塗料ヲ同度敷施シ
 アルヤ又推進螺旋ニ接近シタル處ニ亞鉛製ノ電氣流通防護物ヲ附著シアルヤ
- 三 艦船ハ前回及前々回何年何月ニ入渠シ其ノ底部ヲ塗換ヘ或ハ包被板ヲ張換ヘタルヤ又防銹

及防蕪塗料ハ外面及各回塗料ヲ能ク乾燥シタル後施シタルヤ其ノ他防銹及防蕪塗料ハ何
 質ニシテ各回回施シタルヤ

四 防水裝置、通風裝置及哨筒裝置ニ屬スル噴、弁、扉等ハ其ノ開閉等良好ナルヤ
 第七十四條 本章ノ規定ハ軍艦及水雷艇並ニ排水量五百噸以上ノ航行シ得ル船舶ニ適用ス五百噸
 未満ノ船舶ニシテ總検査ノ必要ヲ認ムルモノハ鎮守府司令長官ニ於テ適宜之ヲ施行スヘシ其ノ
 船舶ノ所屬長ニ於テ必要ト認メタルトキハ本籍鎮守府司令長官ニ要求スヘシ

第八章 附則

第七十五條 端舟及艦船備附船ヲ新造スルトキハ第九號表ニ掲クル規程寸法等ニ依ルヘシ
 第七十六條 船體機關其ノ他ノ改造新設廢却改色艦船備附船ノ引換增備其ノ他試運轉ノ結果等
 ニ依リ在來艦船ノ要目表ノ項目ニ異動ヲ生シタルトキハ造船廠若ハ鎮守府主務廳ヨリ艦船長軍
 港部長水雷艇所屬長若ハ船舟所屬長ニ報告シ明細表ニ異動ヲ生シタルトキハ軍務局ニ報告スヘ
 シ

第七十七條 鎮守府司令長官艦船ヲ入渠セシムルトキハ其ノ目的在渠豫定日數及船渠番號ヲ記シ
 其ノ都度海軍大臣ニ電報スヘシ部外艦船ノ受托工事ニ係ルモノ及私立製造所ニ依托シ入出渠セ
 シムルモノ亦同シ

第七十八條 本則ニ依リ海軍大臣ニ提出又ハ軍務局長ニ送附スル圖面及目錄類ニハ總テ其ノ番類
 ノ番號トスルカ如シ附屬ヲ記入スヘシ又第二條第十七條第二十二條及第三十一條ニ定ムル圖面ハ
 總テ蠟引布ヲ以テ調製スヘシ
 (樣式略ス)

○海軍省第百一號
 海軍下士ニシテ海軍兵學校及海軍機關學校ノ教員ト爲スヘキ者ハ校長之ヲ撰拔シ各其ノ所管鎮守

第二條 戰用品ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二章 保管及出納

第三條 本規則ニ依リ規定シタル戰用品ハ左ノ區分ニ依リ當該師團長若クハ當該長官ニ於テ保管出納ノ擔任者ヲ定メ其行務ヲ規定シ之カ取扱ヲ爲サシムヘシ

其一 師團長ノ主管ニ係ル動員計畫ニ要スルモノ及特設部隊ニ要スルモノニ在テハ兵器被服糧食材料器具貯藏區分表ニ依リ其之ヲ貯藏スル部隊ヲ管轄スル師團長

其二 前項ノ外兵器被服糧食材料器具貯藏區分表ニ依リ官衙ニ貯藏スルモノニ在テハ當該長官第四條 戰用品ノ出納命令ハ當該師團長若クハ當該長官之ヲ執行スヘシ但時宜ニ依リ部下ニ之ヲ分任セシムルコトヲ得

第五條 戰用品ハ第四條命令官ノ命令アルニ非レハ之ヲ出納スルコトヲ得ス

第六條 戰用品ト通常兵備品ト新陳交換スルノ方法ハ當該師團長若クハ當該長官之ヲ規畫シ勉メテ有利ノ手段ヲ執ルヘシ

第七條 戰用品ノ保管出納ヲ擔任スル者ハ該保管物品ニ就キ一切ノ責ニ任ス

第八條 戰用品中廢除若クハ損敗ニ屬スルモノハ當該師團長若クハ當該長官ニ申告シ其指揮ヲ受クヘシ

當該師團長若クハ當該長官前項ノ申告ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其處分ヲ爲スヘシ

第九條 戰用品ノ保管出納ヲ擔任シタル者ノ責任ハ第三章通常検査ニ基キ検査官ノ検査ヲ完了スル後當該出納簿ニ検査済ヲ證明シ検査官署名捺印セル時期ニ於テ解除スルモノトス

第十條 戰用品出納簿ハ陸軍計算記簿規程被服品受拂帳ノ様式ニ依ルヘシ

第三章 検査

第十一條 戰用品検査ノ方法ハ分テ左ノ二種トス

其一 通常検査

其二 臨時検査

第十二條 通常検査ハ毎年一回ニシテ師團長ニ在テハ臨時ニ検査官ヲ命シ之ヲ執行セシムルモノトス官衙長官ニ在テハ隨次之ヲ検査シ若クハ部下ヲシテ其検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 臨時検査ハ陸軍大臣臨時検査官ヲ命シ全國若クハ其一部ニ就テ施行セシムルモノトス

第十四條 検査ノ目的ハ專ラ戰用品ノ整否ヲ檢シ其材料及製作ノ精粗並新陳交換貯藏保全又製式ノ適否ヲ閱視検査シ常ニ戰用品ニ堪ヘシメ併テ各部隊齊一ノ方針ニ據ラシムルニ在リ

第十五條 通常検査官ハ検査終レハ其検査ノ成績ヲ師團長若クハ官衙長官ニ報告ス當該師團長若クハ當該官衙長官ハ之ニ意見ヲ附シ陸軍大臣ニ報告スヘシ

臨時検査官ハ検査終レハ其検査ノ成績ニ意見ヲ附シ陸軍大臣ニ報告スヘシ

附則

第十六條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

○陸軍第六十九號

乘馬具並砲兵及輜重鞍馬具ニ水與器、麥袋ヲ追加シ其制式ヲ別紙圖面ノ通定メ候條左ノ通心得

ハシ (別紙略ス)

明治三十一年七月二十七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

一 明治二十二年四月陸軍第五十二號別表中馬匹飼養具ヲ削ル

二 明治二十二年四月陸軍第五十三號ノ馬糧囊ハ輜重鞍馬具ノ屬品トス

三 乘馬具旅囊ニ水與器附著法ハ別紙圖面ノ通其砲兵鞍馬具ニ係ルモノハ追テ規定ス

四 各部隊ニ現在スル水與器及麥袋ハ其儘應用シ乘馬具旅囊ニ附著スル費用ハ各共管理ノ軍事費

兵器彈藥費ヨリ仕拂フヘシ

○陸軍第七十號

本年一月陸軍第五號第四條土地ノ下ハ國防ニ關スルモノノ十五字ヲ加フ
明治三十一年七月二十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

〔参照〕

陸軍第五號陸軍省事務規則(明治三十一年一月二十六日抄録)
第四條 陸軍所用ノ土地ハ陸軍省主官ノ管理ニ關シ當該陸軍省部長之ヲ管轄ス但于住居園地所ハ該所長ノ管轄トス

○陸軍第七十一號

陸軍藥局方別冊ノ通定ム (別冊略ス)
但從來貯藏ノ藥物中本藥局方ノ製法ニ違フモノハ其盡ルマテ使用スルコトヲ得
明治三十一年八月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○海軍省達第百九號

守衛備人被服規則中左ノ通改ム
明治三十一年八月一日

海軍大臣侯爵西鄉從道

服制表中

舟夫帽製式「知港事廳」トアルヲ「軍港部」ニ改ム
同備考ニ左ノ一項ヲ加フ
定夫及舟夫長舟夫ハ炎暑ノ際ニ限リ竹網代製ニシテ白布ヲ覆ヒタル鍬頭笠ヲ用ユルコトヲ得

○陸軍第七十二號

明治三十年十二月入隊ノ士官候補生並ニ本年五月中央幼年學校卒業ノ士官候補生ヲ來ル九月士官
學校ヘ分遣ノ儀ハ一時延期セシメラル
明治三十一年八月五日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○海軍省達第百十號

明治二十七年達第百三十三號海岸望樓軍用電信取扱規則中左ノ通追加ス
明治三十一年八月五日

海軍大臣侯爵西鄉從道

第五條 外國艦艇出入港報告ノ責任ヲ有スル者ハ海岸望樓軍用電信ニ依ルヲ便宜トスル場合ニ於
テハ望樓長ノ承諾ヲ得テ本線ニ依リ報告スルコトヲ得

○宮内省達甲第五號

學務院官制左ノ通改定ス

明治三十一年八月十日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

學務院官制

第一條 學務院ニ左ノ職員ヲ置ク

學務院長 一人 勅任

宮内大臣ノ監督ヲ受ケ學務院教育ノ主旨及學制ニ依リ院務ヲ總理シ職員ヲ統督シ學生育成ノ責ニ任ス

學務院幹事 二人 奏任

長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

學務院書記 判任

長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

學務院教授 勅任又ハ奏任

長ノ命ヲ承ケ教育ニ從事ス

學務院助教授 判任

教授ノ職務ヲ補助ス

學務院寮長 奏任

長ノ命ヲ承ケ各學寮ヲ管理シ且其寮ニ屬スル學生ノ熏陶ニ從事ス

學務院副寮長 奏任又ハ判任

寮長ノ職務ヲ補助ス

學務院學生監 一人 奏任

長ヲ命ヲ承ケ學生ノ風儀ヲ監督シ且武課ノ教習ニ從事シ學生ヲシテ軍

隊ノ紀律ニ慣熟セシムルコトヲ掌ル

學務院學生監副官 一人 奏任

學生監ノ職務ヲ補助ス

學務院學生監部員 判任

學生監及學生監副官ノ指揮ヲ承ケ其職務ノ細節ニ從事ス

學務院醫官 一人 奏任

長ノ命ヲ承ケ醫藥衛生ニ從事ス

學務院醫官助手 判任

醫官ノ指揮ヲ承ケ其職務ノ細節ニ從事ス

置ノコトヲ得

第二條 教授上必要アルトキ又ハ判任官副官アルトキハ長適當ナル者ヲ選ヒテ囑託員又ハ傭員ヲ

第三條 教育上ノ規律及職員分掌服務規程ハ長之ヲ定メ宮内大臣ニ申陳スヘシ

第四條 高等官俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表ニ依リ判任官俸給ハ同條屬官俸給表ニ依

第五條 寮長及副寮長ニハ本官俸給ノ半額以內ヲ手當トシテ給ス

第六條 教授助教授ニハ授業時間ノ多少學科ノ性質等ニ依リ官等相當俸給以下ノ額ヲ給スルコト

第七條 囑託員ノ報酬傭員ノ俸給ハ長適當ニ之ヲ定ム

第八條 此官制中別ニ規定ナキモノハ總テ宮内省官制ニ依ル

明治三十一年八月十日 學務院官制

二九一

東宮御所御造營局官制

第一條 東宮御所御造營局ハ東宮御所御造營ニ關スル一切ノ事務ヲ管掌ス
第二條 東宮御所御造營局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 長 一人 勅任
- 事務官 二人 二等一人三等以下一人 宮内高等官ヨリ兼任
- 副 六人 判任
- 技監 二人 二等
- 技師 三人 三等以下
- 技手 十六人 判任

第三條 長ハ宮内大臣ノ監督ヲ承ケ所部ノ職員ヲ統督シ局務ヲ總理ス
 第四條 事務官ハ長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス
 第五條 副ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス
 第六條 技監ハ長ノ命ヲ承ケ工務ヲ掌理ス
 第七條 技師ハ長又ハ技監ノ命ヲ承ケ工務ヲ分掌ス
 第八條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス
 第九條 長ハ經費豫算定額内ニ於テ囑託員又ハ傭員ヲ置クコトヲ得
 第十條 高等官俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表ニ依リ判任官俸給ハ同條副及技手俸給表ニ依ル
 第十一條 囑託員ノ報酬傭員ノ俸給ハ長之ヲ定ム
 第十二條 此官制中別ニ規定ナキモノハ宮内省官制ニ依ル

○海軍省達第百十五號

海軍軍法會議ニ於テ處斷シタル囚人ニシテ海軍監獄條例第二條ニ掲載スル者ノ外ハ總テ裁判宣告書ノ謄本ヲ添ヘ海軍軍法會議若クハ海軍監獄附近ノ地方監獄ニ交付スル儀ト心得ヘシ
明治三十一年八月十七日 海軍大臣侯爵西鄉從道

○宮内省達甲第七號

明治三十一年二月宮内省達甲第二號御料局地方部局員職服徽章表中「事務所長出張所長事務所出張所次席者」ヲ「事務所長出張所長伐木事業掛長事務所出張所伐木事業掛次席者」ニ改メ「分擔區員」ノ次ニ「伐木事業掛員」ノ六字ヲ追加ス
明治三十一年八月二十五日 宮内大臣子爵田中光顯 奉 勅

○海軍省達第百十六號

英國ニ於テ製造ノ水雷艇驅逐艇及佛國ニ於テ製造シ本邦ニ於テ組立ツヘキ百二十噸水雷艇左ノ通
明治三十一年八月二十七日 海軍大臣侯爵西鄉從道

- 英國ニ於テ製造
- 第九號水雷艇驅逐艇
- 第十號水雷艇驅逐艇
- 第十一號水雷艇驅逐艇
- 第十二號水雷艇驅逐艇

カカロフ 陽炎
 ヴンズ 湖雲
 ナボロフ 臙
 ニシ 寛

佛國ニ於テ製造

第五號百二十噸水雷艇

千鳥

○海軍省達第百十七號

鎮守府處務細則別表中經理部附ノ欄技手ノ部ヲ左ノ通改ム

海軍大臣侯爵西鄉從道

明治三十一年八月三十日

技	手	二十	二十	三十
---	---	----	----	----

○海軍省達第百十八號

停年計算規則第六條ニ左ノ一項ヲ追加ス

明治三十一年八月三十日

八 三十一年七月一日以後第一豫備艦乗組中ノ日數

海軍大臣侯爵西鄉從道

〔参照〕

海軍省達第八號停年計算規則(明治二十九年二月十九日抄録)

第六條 左ニ掲ケル日數ハ海上勤務ニ算入ス(下略)

○海軍省達第百十九號

明治十八年^{十二月} 丙第六十六號陸海軍喇叭譜同目次同區分表中ニ左ノ通追加ス (追加略ス)

○海軍省達第百二十號

守衛備人被服規則中左ノ通改ム

海軍大臣侯爵西鄉從道

明治三十一年九月十二日

海軍大臣侯爵西鄉從道

守衛備人服制表中

舟夫帽製式(軍港部)ノ下ノ四ヲ(要港部)ノ三ニ改ム

○陸達第七十四號

要塞通信員及電燈使用員教育假規則左ノ通定ム

陸軍大臣子爵桂 太郎

明治三十一年九月十三日

要塞通信員及電燈使用員教育假規則

第一條 要塞通信術及電燈使用法修業ノ爲メ毎年各工兵大隊ヨリ概ネ左ノ人員ヲ鐵道大隊ニ分遣ス其修業期ハ約一箇年間トス

下七上等兵 四名

一、二等卒 八名

第二條 修業者ノ人員其修業區分及入隊時日ハ其時々之ヲ告達ス

第三條 修業者中上等兵一、二等卒ハ現役尙約二箇年ノ期アルモノヨリ選抜セシム

第四條 各工兵大隊長ハ修業者入隊ノ二十日前ニ其兵籍及考科表寫ヲ鐵道大隊長ヘ送達スヘシ

第五條 修業中ハ情願ヲ以テ歸省休暇又ハ修業免除ヲ出願スルコトヲ得ス但疾病其他ノ事故ヲ以

明治三十一年九月 達

海軍省達第百十九號 第百二十號 陸軍省陸達第七十四號 要塞通信員及電燈使用員教育假規則

テ卒業ノ目途ナキモノハ歸隊セシム

第六條 修業者ハ營内ニ居住セシメ其武器、被服、裝具ハ原隊ヨリ携帯セシム

第七條 修業者ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ鐵道大隊長ノ管理ニ屬ス

第八條 修業中衛兵其他ノ諸勤務ハ可成之ヲ免スヘシ

第九條 鐵道大隊長ハ左ノ項目ニ準據シ教育スヘシ

通信員

電信、電話(交換局勤務ヲ含有ス)、各種視號、通信、艦船通信、電信建築術等

電燈使用員

固定電燈ノ使用、遊動電燈ノ使用、電燈構造ノ大要、發電機關構造ノ大要並ニ其運轉法等

第十條 鐵道大隊長ハ修業末期ニ於テ試験ヲ行ヒ學術修得證ヲ附與シテ歸隊セシム

第十一條 要塞通信及電燈研究ノ爲メ工兵士官ヲ鐵道大隊ニ分遣スルコトアルヘシ其人日期日等

ハ之ヲ特達ス

○陸軍第七十五號

軍馬補充部白河支部派出所ヲ栃木縣那須郡那須村大字寺子字小島小字田畑ニ置キ軍馬補充部白河

支部那須派出所ト稱ス

明治三十一年九月十四日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○海軍省達第百二十一號

艦船造修試験検査規則第五十六條中「藥劑室」ノ次ニ「藥品庫」ヲ加ヘ第八號表式ノ末欄ヲ左ノ通改ム

(表式ノ改正略ス)

明治三十一年九月十六日

海軍大臣侯爵西鄉從道

○陸軍第七十六號

陸軍武官進級取扱規則中左ノ通改正セラレ

明治三十一年九月二十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第四條中「之ニ考科表ノ寫」ニ「下士ヨリ准士官ニ拔擢スル」ノ割註ニ改ム

第五條中「考科表ノ寫」ニ「下士ヨリ准士官ニ拔擢スル」ニ改メ又確認書ノ下ニ「並考科表寫」ノ五字ヲ加フ

第六條三月ノ下ニ「下士ニ在」ノ割註ヲ加フ

第十條 決定候補名簿ニ登載セル下士進級區域ヲ轉換シタル者ハ左項ニ據リ進級セシムルモノト

一 特務曹長ノ候補者ニ在テハ其列次ニ從ヒ新所屬部隊ノ候補名簿中適當ノ位置ニ組入レ順次ニ

進級セシム

二 其他ノ下士ニ在テハ候補名簿ノ列次即チ決定者幾人中ノ第何番ナルコトヲ甲所管ヨリ乙所管

ニ通報シ乙所管ニ於テハ其列次ニ從ヒ候補名簿中適當ノ位置ニ組入レ順次ニ進級セシムヘシ

第十五條中「威海衛占領軍」ノ六字ヲ削リ「臨時陸軍運輸通信部」ニ改ム

第十五條第一項「占領軍司令官」ノ六字及同項割註ノ「占領軍司令官」ノ「占領軍」ハ「臨時」ニ改ム

又以下ヲ「又臨時電信部提理」ハ圖例第一ニ在テハ「拔擢官及除任官同第二第三ニ在テハ「拔擢官」トナ

リ軍務局長ニ進達シ同局長ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ」ニ改ム

第十五條第二項ヲ削除シ第三項ヲ第二項ニ同項「臨時陸軍運輸通信部」ヲ「臨時電信部」ニ改メ又同項

該部長ノ下「及提理」ノ二字ヲ加フ

拔擢名簿乙號離形中「考科表寫相添」ヲ「考科表寫相添」ニ改ム

本規則附表拔擢圖例第一第二第三別表ノ通改ム

○陸軍省發達第七十七號
陸軍豫備後備武官進級取扱規則中左ノ通改正セラル
明治三十一年九月二十一日
陸軍大臣子爵桂 太郎

第二條第一項末文進達ス「ヲ」進達シニ改メ其下ニ「第二判定官ハ點檢取捨ノ更ニ拔擢名簿ヲ作リ第三判定官ニ進達ス」ノ二十九字ヲ加フ
本規則乙號拔擢圖例別表ノ通改メ
(別表)
乙號

進級拔擢圖例 其一

被拔擢者	拔擢官	判定官	裁決官	除任官
大尉以上	憲兵司令官 師團區司令官 憲兵司令官 師團區司令官	第一判定官 第二判定官 第三判定官	陸軍大臣 親	親
中尉	憲兵司令官 師團區司令官 憲兵司令官 師團區司令官	第一判定官 第二判定官 第三判定官	陸軍大臣 親	親
少尉	憲兵司令官 師團區司令官 憲兵司令官 師團區司令官	第一判定官 第二判定官 第三判定官	陸軍大臣 親	親
一等軍醫	憲兵司令官 師團區司令官 憲兵司令官 師團區司令官	第一判定官 第二判定官 第三判定官	陸軍大臣 親	親
二等軍醫	憲兵司令官 師團區司令官 憲兵司令官 師團區司令官	第一判定官 第二判定官 第三判定官	陸軍大臣 親	親
三等軍醫	憲兵司令官 師團區司令官 憲兵司令官 師團區司令官	第一判定官 第二判定官 第三判定官	陸軍大臣 親	親
軍醫	憲兵司令官 師團區司令官 憲兵司令官 師團區司令官	第一判定官 第二判定官 第三判定官	陸軍大臣 親	親
軍醫部 下士	憲兵司令官 師團區司令官 憲兵司令官 師團區司令官	第一判定官 第二判定官 第三判定官	陸軍大臣 親	親

進級拔擢圖例 其二

被拔擢者	拔擢官	判定官	裁決官	除任官
各兵科 下士	地方幼年學校長 師團區司令官	第一判定官 第二判定官 第三判定官	陸軍大臣 親	親
衛生部 下士	衛生部司令官 師團區司令官	第一判定官 第二判定官 第三判定官	陸軍大臣 親	親
軍醫部 下士	軍醫部司令官 師團區司令官	第一判定官 第二判定官 第三判定官	陸軍大臣 親	親

〔參照〕

陸軍省發達第九十六號陸軍豫備後備武官進級取扱規則(明治三十年八月三日)抄録
第二條 陸軍豫備後備武官進級令第四條第二項ニ依リ陸軍省設置官衙部隊ニ奉職スル者ノ進級ハ缺員若クハ必要アル毎ニ臨時拔擢スルニテ其取扱ハ左項ニ據ル
但シ其拔擢選定等ニ就テハ陸軍武官進級取扱規則第四條及第十一條ノ例ヲ準用スヘシ
一 士官以上ニ在テハ別表乙號圖例ニ據リ拔擢官ハ拔擢名簿ヲ作リ順序ハ第一第二第三判定官ニ第二判定官ニ進達ス

○海軍省發達第二百二十二號

職工人夫給與規則第七條別表備考ノ欄第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
明治三十一年九月二十二日
海軍大臣侯爵西鄉從道

一 臺灣島及澎湖島派遣ノ職工ニ給スル第七ノ加給額ハ拾錢マテ之ヲ支給スルコトヲ得
○海軍省發達第二百二十三號

計算帳簿規程第二條第六ヲ削除ス
明治三十一年九月二十二日
海軍大臣侯爵西鄉從道

〔參照〕

海軍省發達第二百二十二號計算帳簿規程(明治二十七年二月二十八日)抄録

第二條 經理局ハ左ノ様様ヲ設備シ海軍省所管全部ノ歳入歳出ノ計算ヲ整理スヘシ
六 艦隊經費内附簿

○海軍省達第百二十四號
歳入歳出取扱規程第三十八條第五項ヲ左ノ通改正ス

明治三十一年九月二十二日

海軍大臣侯爵西郷從道
委任仕拂命令官ハ艦隊部隊現金前渡官吏ヨリ現計書ノ送付ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ記帳ヲ了リ之ヲ經理局長ニ送付スヘシ

〔参照〕

海軍省達第百一號歳入歳出取扱規程(明治三十年九月二十七日)抄録
第三十八條第五項

委任仕拂命令官ハ毎月艦隊部隊經費ノ整理ニ關スル書類前渡仕拂命令官ノ仕拂書及増減ノ通知書現金前渡官吏ヲ經理局長ニ送付スヘシ
ニ送付スヘシ
經理局長ハ速ニ之ヲ査了シ委任仕拂命令官ニ返付スヘシ

○海軍省達第百二十五號

職員備人規則第三條中印刷工ノ欄(水雷術練習所)ノ下ニ(造船工練習所)ヲ追加ス
明治三十一年九月二十二日
海軍大臣侯爵西郷從道

○陸軍第七十八號

明治十八年達乙第百五十四號陸海軍喇叭譜同喇叭譜目次同喇叭譜所用區分表中別紙ノ通追加ス
(別紙略ス)
明治三十一年九月二十四日
陸軍大臣子爵桂 太郎

○海軍省達第百二十六號

海軍下士卒身上取扱規則第十五條ニ左ノ一項ヲ追加ス

明治三十一年九月二十四日

海軍大臣侯爵西郷從道
現役豫備役後備滿期又ハ事故ニ由リ現役豫備役後備役若ハ兵役ヲ免セラレタル者アルトキハ本人ノ籍ヲ管スル海兵團ヨリ地方廳ヲ經テ本人在籍地ノ郡市長ニ通知スヘシ

○陸軍第七十九號

本年陸軍大學校初審試験後大尉ニ昇進シタル者ハ依然同校學生候補者タルコトヲ得
明治三十一年九月二十七日
陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第八十號

臺灣島及澎湖島駐劄陸軍部隊給與規則細則中左ノ通改正ス
明治三十一年九月二十七日
陸軍大臣子爵桂 太郎

附表第一表乙ノ内一日一人ノ額ヲ左ノ通改正ス

- 第一旅團管區内各隊 拾七錢壹厘
- 第二旅團管區内各隊 拾八錢六厘
- 第三旅團管區内各隊 拾六錢貳厘

○海軍省達第百二十七號

海軍各學生生徒及練習生ニ授與スル證書及證狀書式中左ノ通追加ス
明治三十一年九月二十七日
海軍大臣侯爵西郷從道

第十八號書式

第 號

卒業證書

海軍軍醫學校學生

官 姓 名

第十九號書式

第 號

修學證書

海軍軍醫學校練習生

官 姓 名

○陸軍第八十三號

陸軍士官下士一等給給與内則中左ノ通追加及改正ス

明治三十一年十月一日

陸軍大臣子爵桂 大郎

第一條第四項ニ左ノ但書ヲ加フ

但隊附砲兵監護ニ在テハ所管毎ニ現員ノ上一半トス

第一條第六項ヲ左ノ通改ム

六 衛生部下士ハ軍隊衛戍病院ヲ通シ所管毎ニ各官現員ノ上一半トス

第二條第四項下士ノ下ニ「砲兵監護ノ割註ヲ加ヘ同條第六項中「校團所舍」ヲ「官衛學校」ニ改ム

第四條第四項中「監軍」ヲ「教育總監」ニ改メ軍馬衛生會議ノ下ニ「衛生材料廠」ノ五字ヲ加フ

第四條第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

五 隊附砲兵監護ニ限リ所管長官ニ於テ之ヲ命スルモノトス

第四條第五項ヲ第六項トシ同項中「若クハ屯田兵司令官」ノ九字ヲ削リ但書第四項ヲ第六項ニ改メ

軍醫長ノ下ニ「陸軍醫部衛生材料廠附衛生部下士ニ在テハ第五師ノ割註ヲ加フ

同條第六項ヲ第七項ニ改ム

〔參照〕

陸軍第六十四號陸軍士官下士一等給給與内則(明治二十五年八月四日)抄録

第一條 一等給ハ左ノ各項ノ一ニ當該スルモノニ之ヲ給ス但准士官以上ニ在テハ任官後一箇年下六ニ在テハ任官後三箇月

以上ノ者ニシテ勤務勉勵品行方正ニアラサレハ其撰ニ當ラス

四 隊附各兵科及軍樂部下士ハ各隊各部毎ニ各官現員ノ上一半トス

六 衛生部下士ハ師團及屯田兵管區毎ニ各官現員ノ上一半トス

第二條 左ノ各項ノ一ニ當該スル者ハ第一條各項ノ規定ニ拘ハラズ一等給ヲ支給スルコトヲ得

四 各兵科下士ニシテ定員一人ニ限ルモノ

三 所管長官若ハ所屬長前項ノ審査ヲ爲サシムルニ方リ診斷ヲ必要ト認ムルトキハ本人ヲ呼出シ又ハ軍醫官ヲ本人所在地ニ派遣シ診斷セシムルコトアルヘシ
本條ハ豫備役後備役ニ在ル者ニモ適用ス

○海軍省達第三百三十一號

海軍文官考課表規則左ノ通定ム

明治三十一年十月三日

海軍大臣侯爵西鄉從道

海軍文官考課表規則

- 第一條 海軍文官考課表ハ奏任官及判任官ノ考課ヲ詳悉スルモノトス
- 第二條 考課表ハ別表第一號書式ニ依リ一通ヲ調製スヘシ但鎮守府司令長官ノ部下ニアル判任官ニ就テハ二通ヲ調製スヘシ
- 第三條 考課表調製官ヲ定ムルコト別表第二號ノ如シ
- 第四條 考課表ハ左ノ諸項ニ依リ進達又ハ移牒スヘシ
奏任官及鎮守府司令長官ノ部下ニアラサル判任官ノ考課表ハ順序ヲ經テ海軍大臣ニ進達又ハ移牒スヘシ
- 鎮守府司令長官ノ部下ニアル判任官ノ考課表ハ順序ヲ經テ鎮守府司令長官ニ進達シ鎮守府司令長官ハ其ノ一通ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ
- 第五條 考課表ハ二月一日ノ所屬ニ就キ之ヲ調製スヘシ但其ノ調製時期ニ近接シ所屬ニ異動ヲ生スルトキハ新調製官ハ前調製官ニ其ノ意見書ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ新調製官ハ之ヲ自己ノ調製セシ考課表ニ添付スヘシ
- 第六條 考課表ヲ海軍大臣ニ進達若クハ移牒スルハ三月十日ヲ以テ期限トス
- 第七條 考課表ハ毎年一回第五條ノ期日ニ於テ調製スルヲ定則トスト雖臨時報告ヲ要スヘキ事件

アルトキハ其ノ都度之ヲ調製シ進達又ハ移牒スヘシ

第八條 考課表ハ本人一身上ニ關スル事實ヲ詳悉確證スルモノナルヲ以テ調製官ハ之ヲ記註スルニ當テハ務メテ其ノ實ヲ揭ケ毫モ修飾忌憚スルコト勿ルヘシ

第九條 考課表中各官ノ所見欄内ニハ其ノ官自ラ記註ヲ爲シ他人ヲシテ之ヲ爲サシムヘカラス

附則

第十條 本年ニ限り第五條ノ期日ヲ十月十五日トシ考課表ヲ海軍大臣ニ進達若ハ移牒スルハ十一月十日ヲ以テ期限トス

(別表第一號)

明治 年 月 海軍文官考課表

職官氏名	年 齡	出 身	動 仕 日 數	現官ニ任セラレタル年 月 日	現俸ヲ給セラレタル年 月 日	職 役	賞 罰

所見	官 署				
	所見	品 行	職務ノ状況	性 質	學 術
所見					
上官ノ見					

- 記註心得
- 一 年齢ノ欄内ニハ考課表調製時ノ年齢ヲ記載スヘシ
 - 二 出身ノ欄内ニハ初メテ官途ニ就キシトキノ年月日及其ノ官名ヲ記スヘシ
 - 三 勤仕日數ノ欄内ニハ出身以來ノ在官年月日數ヲ記スヘシ但非職中ノ年月日數ハ之ヲ附記スヘシ
 - 四 職役ノ欄内ニハ出身前後ヲ問ハス何官職ニテ某ノ役ニ從フ等ノコトヲ記スヘシ
 - 五 賞及罰ノ欄内ニハ官途ニ就キシ以來ノモノヲ記スヘシ
 - 六 學術ノ欄内ニハ其ノ長スル所ノ學術ヲ記スヘシ
 - 七 技能ノ欄内ニハ其ノ長スル所ノ技能ヲ記スヘシ假令ハ何ヤノ技術ニ長ス何ヤノ事務ニ長ス等ヲ記スヘシ
 - 八 性質ノ欄内ニハ廉潔、恰愼、慎重、沈著、純樸等ノコトヲ記スヘシ
 - 九 職務ノ狀況ノ欄内ニハ事務ノ整理、紛雜職務執行ノ殿正、鑄鑒等要スルトキハ例ヲ示シテ詳記スヘシ
 - 十 品行及勤怠ノ欄内ニハ三等ニ区分シ甲乙若クハ丙ト記スヘシ
 - 十一 勤怠ノ次欄内ニハ罰則官ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ記入シ署名捺印スヘシ

十二 上官ノ所見欄内ニハ考課表ヲ監視スル諸官其ノ必要ト認ムル事項ヲ記入シ署名捺印スヘシ
 (別表第二號)

所 屬	被考課官	考課官	被考課官	考 課 表 調 製 官
海軍大臣官房	參事官	次官	判任官	主事
人事課			判任官	課長中ヨリ課長之ヲ指定ス
軍務局			判任官	部員中ヨリ部長之ヲ指定ス
醫務局			判任官	首席主理
經理局	技師	課長	判任官	各局ニ關スル者ニ就テハ局員中ヨリ局長之ヲ指定ス
海軍省司法部	部長	課長	判任官	文庫ニ關スル者ニ就テハ文庫主管其ノ他ハ首席副官
東京軍法會議	主理	次官	判任官	技術會議幹事
軍令部	編修	局長	判任官	科課ニ關スル者ニ就テハ科課長其ノ他ノ者ニ就テハ部長自ら調製シ又ハ部下高等官ニ命ジ調製セシム
技術會議	技師	科長	判任官	首席ノ海軍上長官若クハ士官タル侍從武官
水路部	編修	科長	判任官	官席ノ海軍上長官若クハ士官タル東宮武官
侍從武官			判任官	幕僚中ヨリ司令官之ヲ指定ス
東宮武官			判任官	
鎮守府幕僚			判任官	

軍港部	兵器部	機關部	經理部	測器庫	鎮守府司法部	鎮守府軍法會議	造船廠	病院	監獄院	造兵廠	竹敷要港部	新原探炭所	大學校	兵學校
	技師部長	技師部長	技師部長		部長 司令官	主理 司令官	技師科長		監獄長 司令官	技師科長				教授頭
	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官	判任官
	部長自ら之ヲ調製シ又ハ部下高等官ニ命ジ之ヲ調製セシム			主管	部長	首席主理	科課庫ニ屬スル者ニ就テハ科課長主管其ノ他ノ者ニ就テハ廠長自ら之ヲ調製シ又ハ部下高等官ヲシテ之ヲ調製セシム	部下高等官中ヨリ院長之ヲ指定ス	監獄長	科課ニ屬スル者ニ就テハ科課長其ノ他ノ者ニ就テハ廠長自ら之ヲ調製シ又ハ部下高等官ヲシテ之ヲ調製セシム	部下高等官中ヨリ司令官之ヲ指定ス	所長	校長部下高等官中ヨリ之ヲ指定ス	

○陸軍第八十八號

臨時陸軍建築部支部ノ位置及管轄區域左ノ通定ム

但弘前支部ハ舊仙臺支部ヲ移シ職員ハ相當職名ニ換稱ノ儀ト心得ヘシ

明治三十一年十月四日 陸軍大臣子爵桂 太郎

東京支部 近衛及第一師管内
弘前支部 第二第七及第八師管内
名古屋支部 第三及第九師管内

機關學校	軍醫學校	砲術練習所	水雷術練習所	機關術練習所	造船工練習所	望樓	造船兵監督官	海軍總督府
				教授所長	教授所長	望樓監督官	被考課官ノ屬スル監督官	主理
			判任官	判任官	判任官	判任官	被考課官ノ屬スル監督官	通譯
			首席教官	所長部下高等官中ヨリ之ヲ指定ス	所長部下高等官中ヨリ之ヲ指定ス	參謀長	被考課官ノ屬スル監督官	參謀長
							被考課官ノ屬スル監督官	判任官
							被考課官ノ屬スル監督官	判任官
							被考課官ノ屬スル監督官	判任官

一 本表ニ掲ケル調製官缺員等ノ場合ニ於テ該官ニ依リ考課表ヲ調製セラルヘキ者其ノ代理ヲナストキ若クハ調製官ナキトキハ其ノ官ノ考課表ハ所定調製官ノ直屬長官之ヲ調製ス但直屬長官大臣ナルトキハ海軍次官之ヲ調製ス

二 本表ニ記載セサル各部ニ在テハ其ノ長自ら之ヲ調製シ若クハ部下高等官ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

三 考課表ハ高等官ニアラサレハ之ヲ調製スルコトヲ得ス

大坂支部
廣島支部
熊本支部
第四及第十師管內
第五及第十一師管內
第六及第十二師管內

○陸軍第八十九號
臺灣陸軍軍醫部ノ服務ニ關シテハ明治二十九年陸軍部第四十五號師團軍醫部服務規則ニ準據スルコトニ定メラル

明治三十一年十月七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○海軍省第三百二十二號

雇員備人規則第三條別表中登置ノ次ニ左ノ欄ヲ追加ス

明治三十一年十月十日

海軍大臣侯爵西郷從道

千	歳	一	六	二
明	石	一	五	二
宮	古	一	四	一

○海軍省第三百二十三號

海軍武官考課表規則別表第二號中軍令部長トアルヲ「軍令部次長」ニ改ム

明治三十一年十月十二日

海軍大臣侯爵西郷從道

○海軍省第三百二十四號

海軍上長官士官任用進級取扱規則第二條第三項括弧中軍令部長トアルヲ「軍令部次長」ニ改ム

明治三十一年十月十二日

海軍大臣侯爵西郷從道

〔參照〕

海軍省第三百九十六號海軍上長官士官任用進級取扱規則(明治三十年九月十七日)抄録
 第二條 大尉同相當官ヨリ少佐同相當官ニ少佐同相當官ヨリ中佐同相當官ニ中佐同相當官ヨリ大佐同相當官ニ進級セシム
 (ハキ者ハ左ノ諸項ニ依リ取扱フヘシ)
 三軍令部ニ在テハ局長及課長(局長課長其ノ他局課ニ關セサル者ニ就テハ軍令部長)ハ部下大尉少佐中佐並同相當官中進級セシムルニ適當ナル者ヲ拔擢シ拔擢名簿ヲ調製シ軍令部長ニ出ス軍令部長ハ之ヲ取捨シ候補名簿ヲ調製シ拔擢名簿ト共ニ之ヲ海軍大臣ニ移服ス

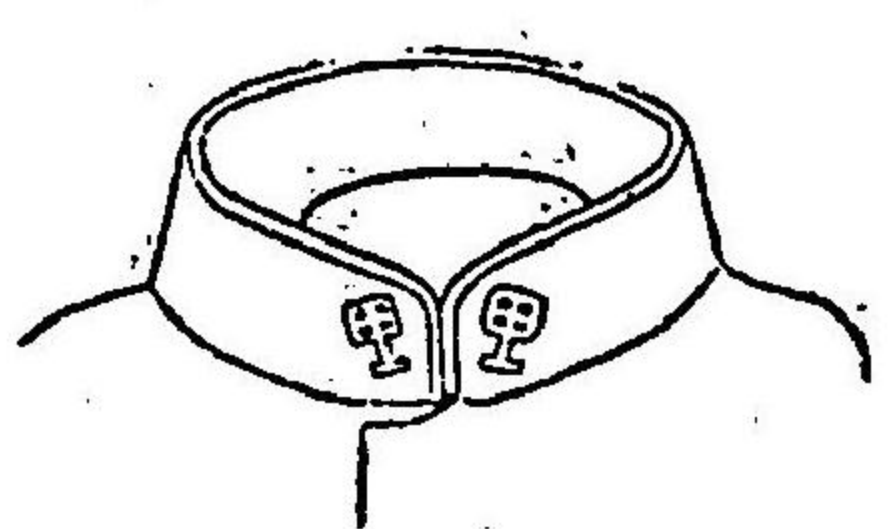
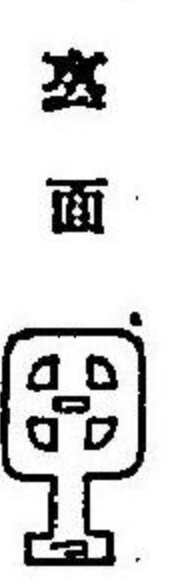
○陸軍第九十號

陸軍騎兵實施學校教導中隊へ分遣中ノ下士兵卒衣ノ襟部ニ附著セシムヘキ徽章左圖ノ通定ム

明治三十一年十月十三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

品質白銅 縦八分 横五分



○陸軍第九十一號
 明治二十九年陸軍第八十二號中左ノ通改正ス

明治三十一年十月十三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

- 六、騎兵實施學校學生ハ毎年十二月
- 八、要塞砲兵射擊學校學生ハ毎年三月及十一月
- 第九項ノ次ヘ左ノ一項ヲ加フ
- 十、軍樂學校學生ハ毎年二月及九月

〔參照〕

明治二十九年五月十日 陸達第八十二號ハ陸軍砲工學校以下校園學生並生徒入學時期ノ件ナリ

○陸達第九十二號

明治二十九年陸達第八十三號中左ノ通改正ス

明治三十一年十月十三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

- 第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
- 一、騎兵實施學校教導中隊ハ分遣ノ下士及兵卒ハ毎年十二月ニ於テ交代セシム
- 第二項ヲ第三項トシ第三項ヲ左ノ通改正ス
- 四、要塞砲兵射擊學校教導中隊ハ分遣ノ下士ハ毎年十一月ヨリ翌年六月マテ在校セシメ兵卒ハ毎年七月ニ於テ交代セシム

〔參照〕

明治二十九年五月十日 陸達第八十三號ハ教導隊下士兵卒分遣時期ノ件ナリ

○陸達第九十三號

明治二十九年陸達第九十八號中「教導中隊ハ分遣中ノ兵卒衣ノ襟部」ヲ「教導中隊下士兵卒ノ被服」ニ改ム

明治三十一年十月十三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

〔參照〕

明治二十九年八月十日 陸達第九十八號ハ要塞砲兵射擊學校教導中隊ハ分遣中ノ兵卒衣ノ襟部ニ附著セシムヘキ徽章ノ件ナリ

○陸達第九十四號

今般臺灣陸軍補給廠條例竝ニ同廠編制表改正相成候ニ付テハ辭令ヲ用井サルモノハ運輸部支部長ハ同地支廠長ニ副官運輸部支部長ニ倉庫部支部長ハ本廠廠員ニ廠附運輸部附竝ニ倉庫部附ハ本廠附ニ運輸部支部員竝ニ倉庫部支部員ハ同地支廠廠員ニ運輸部支部附竝ニ倉庫部支部附ハ同地支廠附ニ右條例施行ノ日ヨリ各職名換稱ノ儀ト心得ヘシ

明治三十一年十月十四日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○海軍省達第百三十五號

艦隊需用品定額表中左ノ通改正ス (改正略ス) 但數量表ハ軍務局ヨリ送付セシム

明治三十一年十月十四日

海軍大臣侯爵西鄉從道

○海軍省達第百三十六號

水路圖誌水路測器供給規則中左ノ通改正ス

明治三十一年十月十四日

海軍大臣侯爵西鄉從道

測器供給表中海兵團ノ部ニ左ノ通追加ス

砂時計十四秒 一 羅鍼天測 一 晴雨計アネロイド形 一 寒暖計乾濕 一 最高最低海中用 一

水深器タムン形 一 ハーブン形 一 測程儀機械的 一

同部中晴雨計水銀「ニ」ヲ「三」ニ改ム

同表備考ニ左ノ一項ヲ追加ス

同	何年	何月何日	何々ヲ命ス	何	何
同	何年	何月何日	勅令(第何號)第何號何々改正(何月何日施行)		
		何月何日	叙何位		
		何月何日	叙何等賜何々章		
同	何年	何月何日	給何級俸		
		何月何日	何々ニ付何々ヲ賞與ス		
同	何年	何月何日	任何官	何	何

履歷書記註心得

- 一 履歷書ニ記註スルニハ總テ楷書ヲ用ユヘシ
- 二 原籍地名ノ欄内ニハ府縣郡區市町村名並ニ番號ヲ記スヘシ
- 三 族籍ノ欄内ニハ雜族士族若ハ平民ト記スヘシ
- 四 氏名ノ欄内ニハ爵氏名ヲ記註シ捺印スヘシ
- 五 氏名ニハ片假名ヲ附スヘシ
- 六 年號欄内ニハ年號及年數ヲ記スヘシ其ノ年數同シキトキハ最初ノ欄ニノミ之ヲ記入シ以下總テ省略スヘシ
- 七 任免補等ノ年月日ハ辭令官旨ノ日ヲ記註スヘシ
- 八 事項欄内ニ記註スヘキ條項ハ概テ左ノ如シ
 學業 學位 任官 免官(第何號) 非職(第何號) 轉官 轉職 進等 增俸 軍人ノ待命休職
 豫備後備免官免役(第何號) 分課ノ命免 委員ノ命免 外國出張歸朝 官國若ハ公署ノ勤務 著大ナル民間ノ事業 叙位 叙勳 授爵 從軍記章 外國勳章受領備用允許 賞 罰(第何號) 恩給 滿年賜金
 一時賜金 恩給法ニ於ケル從軍年ノ始終期 官省沿革(第何號) 恩給
 辭令ハ其全文ヲ掲グヘシ
- 九 官階欄内ニハ勅任官奏任官判任官准勅任官准奏任官准判任官等外等ト記スヘシ
- 十 官職欄内ニハ官旨若ハ辭令ヲ發セシ官名並ニ等ヲ記スヘシ

陸達第九十六號

明治二十三年陸達第六十二號別表中左ノ通改正シ明治三十一年十二月一日ヨリ施行ス

明治三十一年十月二十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

- 一 經理局第一課長所管區分中、俸給及諸給、諸手當ノ八字及「旅費」ノ二字ヲ削リ「侍從武官」ノ上ニ「元帥府」ノ三字ヲ加ヘ割註中「守備混成旅團」ヲ「陸軍」ニ「威海衛」ヲ「韓國」ニ改ム
- 一 經理局第三課長所管區分割註中「守備混成旅團」ヲ「陸軍」ニ改ム
- 一 近衛師團監督部長所管區分中、臨時陸軍運輸通信部ノ九字ヲ削ル
- 一 第一師團監督部長所管區分中、監軍部ヲ「教育總監部」ニ「中央衛生材料廠」ヲ「衛生材料本廠」ニ改ム
- 一 第二師團監督部長所管區分中「第八」ノ二字ヲ削ル
- 一 第三師團監督部長所管區分中「第九」ノ二字ヲ削ル
- 一 第四師團監督部長所管區分中「第十」ノ二字ヲ削ル
- 一 第五師團監督部長所管區分中「第十一」ノ三字ヲ削ル
- 一 第六師團監督部長所管區分中「第十二」ノ三字ヲ削ル
- 一 第七師團監督部長ノ次ニ左ノ五區畫ヲ加フ
 - 第八師團監督部長 第八師管内各官衙各所ニ係ル收入經費
 - 第九師團監督部長 第九師管内各官衙各所ニ係ル收入經費
 - 第十師團監督部長 第十師管内各官衙各所ニ係ル收入經費
 - 第十一師團監督部長 第十一師管内各官衙各所ニ係ル收入經費
 - 第十二師團監督部長 第十二師管内各官衙各所ニ係ル收入經費

一 表末ニ左ノ備考ヲ加フ
 備考 甲所管内所在官衙ノ出張所若クハ派出所ニシテ乙所管内ニ在ルモノ、收支ハ甲所管ニテ取扱ハシムルコトアルヘシ

○陸軍第九十七號

下士以下携帶ノ飯盒及水筒左ノ通漸ヲ以テ改正ス

明治三十一年十月二十一日

飯盒製式容量及携帶法

陸軍大臣子爵桂 太郎

一金質 アルミニウム

二重量 約百十七匁

三形状 扁豆形柱體 長五寸四分 高四寸七分五厘 幅三寸一分

四構造及用法 掛子即チ菜入レハ精米ニ合ヲ量リ蓋ハ湯汁ヲ容ルヘキ用ヲ兼ネ又身ノ側面ニ二線ヲ刻ス其下方ノ線ハ精米ニ合ヲ量クトキノ水量ヲ示シ其上方ノ線ハ精米四合ヲ量クトキノ水量ヲ示ス

五容量 二食分入

六色澤 光澤ヲ有セサル黒色塗料ヲ施ス

七携帶法 徒歩兵ニ在テハ背蓋ニ附著シ乘馬兵ニ在テハ鞍蓋ニ附著シ若クハ收容ス

水筒製式容量及携帶法

一素質 アルミニウム

二容量 三合

三重量 約七十八匁

四構造 水筒 扁圓壘形ニシテ「キルク」製ノ口栓ヲ付ス

携帶具 網形式

水筒 扁圓壘形ニシテ「キルク」製ノ口栓ヲ付ス

五色澤

水筒 光澤ヲ有セサル黒色塗料ヲ施ス

携帶具 多脂牛皮ノ固有色

六携帶法 騎兵ハ右肩ヨリ左脇ニ掛ケ其他ノ兵種ニ在テハ之レニ反ス

○陸軍第九十八號

陸軍看病人磨工召募規則左ノ通定ス

但明治二十一年陸軍第二百二十九號看病人磨工召募準則及明治二十二年陸軍第四百四十六號屯田

兵醫員及看病人磨工取扱ヲ廢ス

明治三十一年十月二十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

陸軍看病人磨工召募規則

第一條 看病人ハ陸軍部隊ニ於ケル患者ノ看護並之ニ連繫スル業務ニ服セシメ磨工ハ衛生材料醫

醫材料ノ研磨修理ノ事ニ服セシム

第二條 看病人ハ採用ノ日ヨリ約六箇月間勤務ノ傍ラ時ヲ定メテ看護學ヲ修業セシメ其ノ後ハ勤

務ノ餘暇ヲ以テ必要ノ學術ヲ教授スルモノトス

第三條 看病人磨工ハ採用ノ日ヨリ滿三年以内ハ本人ノ情願ニ依リテ解備スルコトナシ但傷痍疾

病若ハ品行不正勤務懶惰ナル者ハ解備ス

三年以上勤務スル者ト雖モ戰時若ハ事變ノ際ハ如何ナル事故アリトモ解備セサルヲ例トス

第四條 看病人磨工ノ勤務年齢ハ五十歳ヲ以テ定限トス但精勤實直身體強壯ノ者ニ在テハ本人ノ

情願ニ依リ特ニ勤續セシムルコトヲ得

第五條 看病人ハ被服料ヲ給シテ定制ノ被服ヲ著裝セシム

磨工ニハ被服料ヲ給スルコトナシ但戰時若ハ事變ノ際ニ限り必要ニ應ヒ一定ノ被服ヲ貸與スル

第六條 看病人磨工ノ給料及看病人被服料ノ給與ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第七條 看病人磨工ハ部隊毎ニ所要ノ人員ヲ採用スルヲ例トス但部隊所在地ニ於テ所要ノ人員ヲ得難キトキハ他ノ備成地部隊附ノ者ヲ轉屬セシムルコトヲ得此場合ニハ各所屬部隊長協議ノ上之ヲ行フモノトス

第八條 看病人磨工ノ志願者ハ年齢二十一年以上四十年以下ニシテ左ノ試験格ニ合スル者ニアラ

サレハ採用スルコトナシ

一 身長五尺以上ノ者

二 體格強健ナル者

三 讀書假名交リ文

四 作文普通書簡文

五 研習修理ノ實地看病人志願者ヲ除ク

第九條 前條ノ試験及志願者召募ノ手續ハ各部隊長部下ニ命ジテ施行セシム

第十條 左ニ列記スル事項ノ一ニ當ル者ハ看病人及磨工ニ採用スルヲ得ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

二 復權ヲ得サル家資分散者破産者若ハ身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終サル者若ハ其ノ相續人

三 常備役後備役及第一補充兵役ニ在ル者

第十一條 戰時若ハ事變ニ際シ特設部隊豫備要隘病院ヲ除クノ要員補缺ノ爲メ看病人磨工ヲ召募スルハ

第十二條 外國駐屯ノ各部隊ニ要スル看病人磨工ハ内地各部隊附看病人磨工中ヨリ派遣セシムルモノトス

在臺灣各部隊ニ於テ所要ノ人員ヲ得難キトキハ内地各部隊附看病人磨工中ヨリ派遣セシムルコトヲ得

前各項派遣ノ爲メ生シタル缺員ハ之ヲ補足スルコトヲ得

第十三條 看病人磨工志願者ニハ左ニ掲クル書式ニ據リ願書履歷書及戶籍明細書ヲ差出サシムハシ但保證人ハ丁年以上ニシテ採用地ニ於テ一家ヲ爲ス身元確實ナルモノニ限ル

願書書式(用紙美濃白紙)

願書

年月日

某 職

府縣族籍

戶主(親子弟)

氏 名印

現住所府縣都市町村番地

身元保證人

府縣族籍

何國何都市區何町村何番地

氏 名印

現住所府縣都市町村番地

身元保證人

府縣族籍

何國何都市區何町村何番地

氏 名印

現住所府縣都市町村番地

身元保證人

府縣族籍

何國何都市區何町村何番地

氏 名印

現住所府縣都市町村番地

身元保證人

府縣族籍

何國何都市區何町村何番地

氏 名印

現住所府縣都市町村番地

身元保證人

府縣族籍

何國何都市區何町村何番地

氏 名印

現住所府縣都市町村番地

身元保證人

府縣族籍

履歷書書式(用紙美濃白紙)
履歷書

- 一 教育ヲ受ケタル學科年月校名師名等
- 一 官廳會社等ノ職務又何業技藝ニ従事シタル事項
- 一 賞
- 一 罰

右之通相違無之候也

年月日

戶籍明細書書式(用紙美濃白紙)

戶籍明細書(同戶籍内ニ現存スルモノ、ミヲ記載ス)

- 一 父
- 一 母
- 一 何
- 一 何

何 某
何 某

右之通相違無之候也

年月日

府縣族籍

戶主(稚子弟)

氏 名

何年何月何日生

本人

氏 名印

府縣族籍職業

何國何郡市區何町村何番地

氏 名

何年何月何日生

生年月日
同 同 同

本人

氏 名印

○陸達第九十九號

明治二十三年陸達第二百十九號備員以下給料支給規則備給表備考中左ノ通第二項ヲ改メ第五項ヲ追加ス

明治三十一年十月二十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

- 二 新ニ備入ノトキ磨工ハ技藝ノ生熟ニ依テ給額ノ等級ヲ定メ其他ノ者ハ最下級ノ額ヲ給シ爾後總テ毎級勤續六箇月^{磨工ハ一箇年}ニ滿タサレハ昇級セシムルコトヲ得ス但馬丁ハ此限ニアラズ
- 五 屯田兵給與令第十一條ニ依リ上長官以下隊附特別加俸ヲ受クル期間ハ當該隊附看病人ニ限リ本表給額ノ外一箇月貳圓以内ヲ増給スルコトヲ得

○陸達第百號

明治二十六年陸達第百七號陸軍監獄看守及陸軍備人被服給與規則中左ノ通改ム
明治三十一年十月二十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第四條中「轉用スル」ヲ「轉用シ若クハ陸軍軍隊官衙學校ニ於テ看病人ヲ轉屬セシムル」ニ改ム

【參照】

- 陸達第百七號陸軍監獄看守及陸軍備人被服給與規則(明治二十六年十一月四日)抄録
- 第四條 陸軍監獄ニ於テ看守ヲ甲乙轉用スル場合ニ在テハ所持ノ被服ハ總テ携持セシメ其被服料ハ從前ノ給與ニ照準シ浦一箇年毎ニ第一表ノ乙額ヲ給ス

○海軍省達第百二十八號

水路部處務細則中左ノ通改正ス
明治三十一年十月二十六日

海軍大臣侯爵西鄉從道

第一條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

第二條 水路部長ハ毎年測量ヲ要スヘキ區域及其ノ測量順序ヲ畫定シ海軍大臣ニ進達スヘシ
第三條中第一ノ前ニ左ノ通り追加シ從前ノ第一ヲ第二ニ改メ以下順次繰下ク
一 測量ヲ要スヘキ區域及其ノ測量順序ヲ畫定スル事
從前ノ第二條ヲ第三條ニ改メ以下順次繰下ク

〔參照〕

海軍省達第四百五十五號水路部處務規則(明治三十年四月十二日抄録)
第三條 測量科長ハ左ノ事項ヲ掌ルヘシ(下略)

○海軍省達第四百二十九號

海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則第十條ヲ左ノ如ク改正ス

明治三十一年十月二十六日

海軍大臣侯爵西鄉從道

第十條 豫備役又ハ後備役ニ在ル者旅行スルトキハ海軍召集條例第二十三條ニ依ルノ外在京者ニ
限リ十四日以内ノ旅行ト雖モ其發着ヲ人事課ニ届出ヘシ

〔參照〕

海軍省達第九十六號海軍准士官以上履歷書及身上取扱規則(明治三十一年六月二十三日抄録)
第十條 豫備役又ハ後備役ニ在ル者旅行スルトキハ出發前其ノ豫定日數及出發ノ日ヲ本人ヨリ人事課ニ届出ヘシ隨着シタ
ルトキ亦同シ

○陸軍部百一號

臺灣陸軍監督部服務規則左ノ通相定メ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

明治三十一年十月二十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

臺灣陸軍監督部服務規則

第一條 部長ハ會計上諸法規ニ準據シテ部務ヲ處理シ部員以下ニ部務ヲ分課シ且其勤務ヲ監督ス

要スレハ事務細則ヲ規定スルコトヲ得

第二條 部長ハ所管監督部及軍吏部士官ノ進退ニ就テハ其意見ヲ經理局長ニ具申シ尚必要ト認ム
ルモノハ臺灣總督ニ上申スヘシ

第三條 部長ハ所管内將校相當官ノ教育ヲ管掌シ其成績ヲ經理局長ニ申報シ又下士ノ教育ハ所屬
士官ヲシテ掌ラシメ之カ監視ニ任ス

第四條 部長ハ所管内會計上ノ事ニ就テハ常ニ之ヲ詳悉シ臺灣總督ノ諮詢ニ對シテ其意見ヲ陳述
スヘシ

部長ハ其管掌ノ事務ニ關シテハ所管内ノ部隊ニ直接ニ照會スルコトヲ得

第五條 部長ハ會計事務實施上審議ヲ要スルモノアルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ得テ所管内部隊ノ
軍吏ヲ召集シ會議ヲ開クコトヲ得但臺灣總督管轄外ナル部隊ノ者ニ在リテハ其長官ニ照會スヘシ

第六條 部長ハ會計事務實施上地方行政ニ關係アルモノハ得失便否ヲ查察シテ之ヲ臺灣總督ニ上
申シ地方ノ行政事務ト背馳セザラシムルヲ要ス

第七條 部長ハ會計上ニ關シ臺灣總督管轄ノ部隊ニ指示ヲ要スル事アルトキハ臺灣總督ニ上申シ
令達ヲ請フヘシ

第八條 部長ハ臺灣總督ノ認可ヲ得テ毎年一回所管内部隊ノ閲檢ヲ行ヒ行務ノ整齊教育ノ精粗給
養ノ良否等ヲ查察シ其狀況ヲ臺灣總督及經理局長ニ申報スヘシ

第九條 部長ハ所管ノ事務ヲ分掌シ精算檢査及主要ノ記簿諸證書諸表面等總テ成規ノ樣
式ニ恰當セシムルコトニ就テハ其責ニ任ス

下士判任文官ハ上官ノ命ヲ奉シ文書ノ記載簿簿ノ記注等其他細務ニ服ス

○海軍省達第四百十號

明治二十二年達第二百七十一號及二十三年達第二百八十號ヲ廢ス

明治三十一年十月二十九日

海軍大臣侯爵西鄉從道

〔參照〕

明治三十三年九月十日 陸軍省第四百七十一號ハ水雷隊定員中補充方ノ件 同二十三年十一月八日 陸軍省第四百八十號ハ補充スヘキ卒缺員ノ爲合定員補缺方ノ件ナリ

○陸軍省第四百二號

臺灣陸軍補給廠服務概則左ノ通改ム

明治三十一年十一月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

臺灣陸軍補給廠服務概則

- 第一條 廠長ハ臺灣鐵道ノ使用ニ就テハ其主任者ト協議シ陸軍運送船ノ使用ニ就テハ其船主ト契約シ特約定期船ニ關シテハ臺灣總督ニ稟議スヘシ
- 第二條 但陸軍運送船借上ノ契約ハ字品支廠長ニ委任スルコトヲ得
- 第三條 廠長ハ大ナル輸送ニ方リテハ臺灣總督及關係師團長ト協議ノ上船舶及臺灣鐵道ノ使用法ヲ計畫シ必要ノ訓令ヲ支廠長ニ與ヘテ實施セシムルモノトス
- 第四條 但場合ニ依リ字品支廠長ヲシテ師團長ト協議區處セシムルコトヲ得
- 第五條 廠長ハ各隊ノ需用程度ヲ顧慮シ糧秣其他消耗品ヲ各支廠若クハ出張所ニ貯藏シ補給ニ當テ支障ナカラシムヘシ
- 第六條 廠長ハ軍需品ノ供給ニ就テハ其方法ヲ定メ支廠長ヲシテ之ヲ實施セシムヘシ
- 第七條 補給物品ノ購買契約ハ廠長之ヲ爲ス但時宜ニ據リ支廠長ニ委任スルコトヲ得
- 第八條 支廠長ハ相互ノ連絡ヲ保チ業務上直接關係アル諸官ト交渉シテ齟齬違算ナキヲ期スヘシ
- 第九條 支廠長ハ其地ニ在ル陸軍運送船ヲ指揮監督シ其乘組軍醫及船長ニ必要ノ命令若クハ訓令ヲ下スヘキモノトス又特約定期船ニアリテモ支廠長ノ權限範圍内ニ在テハ本條ニ準シ指揮スルコトヲ得
- 第十條 支廠長ハ運輸補給規程ノ範圍内ニ於テ各部隊長ノ請求ニ應シ人馬竝ニ物件ノ海上ニ於ケル輸送ヲ爲スヘキモノトス
- 第十一條 支廠長ハ船舶輸送ニ在テハ船舶ヲ準備シ揚陸搭載ヲ指揮ス而テ輸送指揮官ニ必要ノ諸件

ヲ注意スルコトヲ得

第十條 支廠長ハ患者ヲ船舶ニテ輸送セントスルトキハ病院船乗組軍醫ニ命シ其人員ヲ定ム但搭載スヘキ患者ハ其傷病ノ種類、輕重、發著地點ノ距離船舶内看護守護ノ程度ニ從ヒ病院船乗組軍醫ト發送スル病院附醫官ト協議執行セシムルモノトス

患者ヲ搭載上前項ノ注意ニ從ヒ且ツ適當ノ衛生部員ヲ附シ運送船及特約定期船若クハ商船ヲ以テ患者ヲ輸送スルコトヲ得但傳染病並ニ精神病患者ニ限リ本項ニ據リ搭載スルコトヲ得ス

第十一條 宇品支廠長ハ後送患者ヲ患者集合所ニ收容シ之ヲ廣島陸軍豫備病院ニ送致スルモノトス

第十二條 支廠長ハ搭載揚陸ヲ便ナラシムル爲メ船舶ノ出入スル場所ニ舢舨其他材料ヲ準備シ置クヘキモノトス

第十三條 支廠附屬ノ大小船舶其他ノ諸材料並ニ船員舢舨子傭役人夫ハ其支廠ノ管理ニ屬ス但材料ノ補充人員ノ増減ハ廠長ニ申請スヘシ

第十四條 支廠長ハ鐵道輸送ニ在テハ驛長ト諸般ノ事ヲ協議シ違算ナカラシメ而シテ輸送指揮官ニ必要ノ諸件ヲ注意スルコトヲ得

第十五條 支廠ニ貯藏ノ軍需品モ亦當該支廠ノ管理ニ屬ス其補充及減耗損敗等アルトキハ廠長ニ申請シテ處理スルモノトス

第十六條 軍需品ノ輸送ニ當テ護衛兵ヲ要スルトキハ廠長ハ最寄軍隊ニ要求スルモノトス時機之ヲ要スレハ支廠長及出張所員ハ直ニ之カ要求ヲナスコトヲ得

第十七條 支廠(出張所)ハ其所在地及附近ニ軍隊ノ宿營スルトキハ宿舍並ニ給養ノ準備ヲナスモノトス但其費用ハ當該部隊ヲシテ支拂ハシム

第十八條 出張所ニ在ル本廠員及支廠員ハ其任務ノ範圍内ニ於テ前各條支廠長ノ爲メニ規定

シタルモノニ準シ服務スルモノトス

第十九條 補給廠ハ每翌月盡日迄ニ左ノ事項ヲ陸軍省ニ報告スヘシ
但之レカ爲メ要スル諸件ハ各部隊ヨリ通報セシムルコトヲ得
一 一箇月間ニ施行セル業務ノ成績
一 糧食費實費差引表
一 馬匹費實費差引表
一 糧食品受拂明細表
一 馬糧受拂明細表

第二十條 似島檢疫所閉鎖中ハ宇品支廠ヲシテ之ヲ保管セシム

○陸運第百三號
臺灣陸軍補給廠運輸補給規程
明治三十一年十一月一日
陸軍大臣子爵桂 太郎

臺灣陸軍補給廠運輸補給規程
第一章 運輸
第一條 軍隊及軍需品ノ海上輸送ハ特約定期船若クハ陸軍運送船ヲ以テ施行スルヲ例トス但特別ノ航路ニ在テハ此限リニアラス
第二條 陸軍官憲ノ命令ヲ以テ臺灣及在外軍隊所在地ニ往復スル軍人軍馬馬匹及傭役者モ亦前條ノ例ニ據ル但シ特別ノ理由アルモノハ此限ニアラス
第三條 第一條ノ輸送ニハ輸送券ヲ用ヒ第二條ノ輸送ニハ乘船券ヲ用ニ
此輸送券及乘船券ハ別紙雛形ノ如ク補給廠ニ於テ調製ス

- 第四條 各部團隊長船舶輸送ヲ行ハントスルトキハ豫メ補給廠長(必要ノ場合ニ在テハ字品支廠長)ト協議シ而シテ乘船前日迄ニ所要ノ將校ヲ乘船地ニ差遣シ支廠長(出張所員)ト協議シ諸準備ヲ爲サシムヘシ
- 第五條 船舶ニ人馬軍需品ヲ搭載スルトキハ支廠長(出張所員)ハ輸送券ヲ輸送指揮官及船長ニ第六條 前條ノ輸送ニ當リ船舶ニ要スル費用ト第二條ノ乘船者(馬匹)ノ給養ハ補給廠ノ支辨トシ軍隊給養ニ係ル費用ハ總テ該隊ノ支辨トス
- 第七條 輸送指揮官ハ船長ノ職域ニ關涉スルヲ得ス
- 第八條 陸軍運送船及特定期船ニハ左ノ資格ヲ有スルモノニ限リ支廠(出張所)ニ便乗ヲ請求スルコトヲ得但豫メ所屬長ヨリ支廠長(出張所員)ヘ照會スルモノトス
 - 一 私事ノ爲メ許可ヲ得テ往復スル陸軍軍人軍屬
 - 二 臺灣ニ在勤スル軍人軍屬ノ家族及從者
 - 三 輸送物品ノ宰領者
- 第九條 官用ヲ以テ臺灣及在外軍隊所在地ニ往復スル陸軍外ノ官吏及其屬員ニシテ特別ノ理由アル者ハ支廠(出張所)ニ陸軍運送船ノ便乗ヲ請求スルコトヲ得但豫メ所屬官衙ノ長官ヨリ補給廠ヘ照會スルモノトス
- 第十條 便乗ノ許可ヲ得タルモノハ支廠(出張所)ヨリ乘船券ヲ受領シ乘船ノ際船長ニ交付スヘシ
- 第十一條 乘船者ハ船内ニ在テハ監督將校、輸送指揮官及船長ノ命令指示ニ服從シ且船内諸規則ヲ遵守スヘシ
- 第十二條 第八條第九條ノ乘船者ハ船内食料ヲ自辨スルモノトス
- 第十三條 乘船者ハ一人二十貫目以上ノ手荷物ヲ携帶スルヲ得ス特別ノ理由アルモノハ支廠長

- (出張所員)ノ許可ヲ受クヘシ又如何ナル理由アルモ商品ヲ携帶スルヲ許サス
- 第十四條 乘船券ハ單獨者ハ各個人ニ附與シ一團ヲ爲スモノハ其引卒者ニ附與シ以テ其監督者トナス
- 第十五條 臺灣及在外各部團隊附准士官以上(憲兵上等伍長及特務曹長ヲ除ク)及被服品自辨ノ下士竝ニ文官雇員傭人等ノ被服品ヲ追送スルニハ各發送者ハ之ヲ本人出發當時ノ所管(發送者本人出發當時ノ所管地外ニ居住スル場合若クハ出發當時所管ナキモノニアリテハ其地所管ノ師團司令部)ニ出シ受領證ヲ受クヘシ各所管ニ於テハ之ヲ取繼メ品目員數表ヲ添ヘ字品支廠(門司出張所)ニ送附スヘシ但搭載地迄及揚陸地ヨリ到着地迄ノ運搬費ハ其所管ノ支辨トス
- 第十六條 臺灣及在外各隊所要ノ酒保品ヲ他ノ地方ヨリ買收セントスルトキハ各隊長ニ於テ請負者ニ命シ支廠(出張所)ヘ該品ノ輸送ヲ請求セシムヘシ此場合ニ在テハ其隊長ハ品目數量及請負者ノ姓名等ヲ詳記シ支廠(出張所)ニ豫報シ置クヲ要ス
- 酒保物品ノ量目ハ別表ニ據ル
- 第十七條 貴重品ノ輸送ニハ宰領者ヲ附スルヲ例トス又酒保品ノ輸送ニ當テ宰領者ヲ附スルトキハ其人員二名ヲ限リトス
- 第十八條 支廠及出張所ニ於テ前條ノ輸送品ヲ受領スルトキハ之ヲ通知書ニ照合シ便船毎ニ届先最寄支廠(出張所)ニ遞送スルモノトス
- 但第十六條ノ物品ニ在テハ時宜ニ依リ捆包ヲ解放シ品種數量ヲ検査ス此場合ニ於テ再捆包ニ要スル費用ハ發送者ニ負擔セシムルコトアルヘシ
- 第十九條 總テ輸送物品ハ荷物ノ捆包ヲ堅固ニシ送先キ部隊號若クハ受領者所屬部隊號竝ニ官姓名其他發送部隊號或ハ發送者ノ住所姓名及物品ノ名稱ヲ記シタル木札ヲ各捆包ニ固著スヘシ

第二十條 臺灣輕便鐵道ニ於ケル輸送ノ方法ハ補給廠長ノ定ムル所ニ據ル

第二章 補給

第二十一條 臺灣陸軍補給廠ニ於テ補給スヘキ所ノ物品ハ臺灣所在陸軍各部隊所要ノ糧秣被服其他ノ軍需品トシ兵器彈藥馬匹（附屬品）及衛生材料獸醫材料ノ補給ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第二十二條 前條ノ補給品ハ總テ臺灣給與規則ニ依テ補給スルモノトス其物品ハ普通ノ給與品ニ限ル若シ特別物品ヲ必要トスルトキハ臺灣總督ヨリ補給廠長ノ意見ヲ附シ陸軍大臣ニ請求シ其認可ヲ得タルモノニアラサレハ補給スルコトヲ得ス

第二十三條 糧秣及其他ノ軍需品ハ臺灣地方ノ物資ヲ使用スルコトニ努ムヘシ但必要ニ依リ内地品ヲ要スルモノ又ハ假令臺灣地方ニ於テ收得ノ途アルモ經濟上内地品ヲ利益ト認ムルモノハ本條ノ限リニアラス

第二十四條 被服地質ハ其數額表ニ基キ需用ニ應シテ補給廠長ヨリ被服廠主管ニ請求スルモノトス

第二十五條 特別加給ノ被服ハ總テ調製品ヲ以テ交付ス依テ補給廠長ハ毎年度内需用高ヲ調査シ被服廠主管ニ請求スヘシ

第二十六條 各隊ニ於テ糧秣被服其他ノ軍需品ヲ要スルトキハ臨時急需ノ外ハ其所要期ヨリ約二箇月前ニ其品目數量ヲ明記シ當該大隊若クハ獨立中隊ヨリ當該補給廠支廠ニ請求スヘシ

第二十七條 支廠ニ於テ各隊ノ請求ヲ受ケタルトキハ物品ノ梱包ヲ整ヘ輸送ヲ實施シ其品目數量ヲ廠長ニ報告スルモノトス

第二十八條 支廠（出張所）ヨリ各隊ニ供給スル副食物馬糧及被服消耗品類ハ貯藏品又ハ購買上ノ都合ニヨリ代用品ヲ交付スルコトヲ得

第二十九條 臺灣所在各部ニ於ケル補給ハ各隊ノ例ニ依ルヘシ

(別表)

各隊一箇月酒保物品量目表

品目	陸軍			海軍		
	步兵大隊	騎兵中隊	砲兵大隊	第一隊	第二隊	第三隊
日用品	一、二八七	一、四四四	五九九	四三三	四四四	三六〇
飲食品	八、四四五	一、〇七六	三、九三八	二、八四三	二、七三三	二、三六四
雜品	一、一九五	一、五二二	五五六	四〇二	三八五	三三四
計	一〇、九三七	一、三九二	五〇九三	三、六七八	三、五三三	三、〇五八

備 本表ハ臺灣及在韓國諸部隊ノ爲メニ海上輸送ノ數量トス○臺灣内ニ於ケル陸送ハ補給廠ニ於テ其一部ヲ輸送スルコトヲ得但此品目數量ハ同廠長之ヲ定ム

砲兵輓馬具中駿馬鞍及旅囊縛革ノ制式ヲ修正シ同輓馬具ニ水與器附著法別紙圖面ノ通定ム

但シ修正及附著ニ要スル費用ハ各其管理ノ軍事費兵器彈藥費ヨリ仕拂フヘシ

明治三十一年十一月二日 陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第百五號 陸軍大臣子爵桂 太郎

軍馬補充部六原支部ヲ設置シ其ノ等級及位置左ノ通定ム

明治三十一年十一月二日 陸軍大臣子爵桂 太郎

軍馬補充部六原支部 陸軍大臣子爵桂 太郎

陸軍大臣子爵桂 太郎

陸軍大臣子爵桂 太郎

陸軍大臣子爵桂 太郎

陸軍大臣子爵桂 太郎

○海軍省達第四百四十一號

學校及練習所ニ於テ教員ノ職ヲ奉スル下士卒技倆拔群ニシテ特ニ撰拔スヘシト認メタル者アルトキハ海軍准士官下士卒任用進級試験規則第三條ノ期限ニ關セズ臨時ニ試験ヲ行ヒ海軍准士官下士任用進級取扱規則第十條及海軍卒進級條例第六條ノ期限ニ關セズ拔擢名簿候補名簿ヲ調製進達シ若ハ送附スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ決定候補名簿ノ順序ニ關セズ臨時ニ任用進級セシムルコトヲ得

明治三十一年十一月八日

海軍大臣侯爵西郷從道

○海軍省達第四百四十二號

明治二十年四月副令第四十五號中軍屬ノ下ニ「新任若ハ」ノ四字及拜受ノ下ニ「又ハ」辭令拜受前ト雖モ官報ニテ承知ノ上ハ其ノ二十字ヲ加ヘ左ノ但書ヲ追加ス

明治三十一年十一月八日

海軍大臣侯爵西郷從道

但第三豫備艦ニ於テ解裝事業執行中轉職轉勤等拜命ノ節ハ右事業終了後一週間内ニ出發スル節ト心得ヘシ

〔參照〕

海軍省訓令第四十五號(明治二十年四月二十八日)
軍人軍屬轉職轉勤及各地在勤出張等拜命ノ節ハ特ニ指定スルトキヲ除クノ外辭令拜受ノ日ヨリ一週間内ニ出發スル節ト心得ヘシ

○海軍省達第四百四十三號

海軍外國旅費規則第十一條中辭令書受領ノ下ニ「若ハ」官報ニテ承知ノ八字ヲ加フ

明治三十一年十一月八日

海軍大臣侯爵西郷從道

〔參照〕

海軍省達第四百四十九號海軍外國旅費規則(明治三十年十月二十六日)抄錄
第十一條 旅行中仕官進級等ニ依リ旅費等級ニ異動アリタルトキハ辭令書受領ノ日ヨリ相當ノ旅費ヲ支給ス

○海軍省達第四百四十四號

在外國學生學資金支給細則第四條第二項ヲ左ノ如ク改ム

明治三十一年十一月八日

海軍大臣侯爵西郷從道

外國在留ノ者ニ留學ヲ命シタルトキハ辭令受領若ハ官報ニテ承知ノ日ヲ以テ十五日前後ヲ區分シ前項ニ準シ之ヲ支給ス

〔參照〕

海軍省達第六十二號在外國學生學資金支給細則(明治二十三年二月二十日)抄錄
第四條第二項 外國在留ノ者ニ留學ヲ命シタルトキハ辭令書到達ノ日ヨリ學資金ヲ給シ該書到達ノ日ヲ以テ十五日前後ニ區分シ全額又ハ半額ヲ給ス

○海軍省達第四百四十五號

海軍軍人俸給加俸支給細則第二條第一項及第五條第一項但書並同條第二項及第二十五條第一項第二中辭令受領ノ下ニ「若ハ」官報ニテ承知ノ八字ヲ加フ

明治三十一年十一月八日

海軍大臣侯爵西郷從道

〔參照〕

海軍省達第四百一十一號海軍軍人俸給加俸支給細則(明治二十九年十二月十八日)抄錄
第二條第一項 待命休職及停職ヲ命シタルトキハ辭令受領ノ翌日ヨリ其ノ俸給ヲ支給ス
第五條第一項第二項 前條ニ依リ航海加俸ヲ給スヘキ軍艦又ハ水雷艦ニ乗組ヲ命シタルトキハ乘艦若クハ乘船ノ日ヨリ又乗組ヲ免シタルトキハ退艦若クハ退船ノ日マテ航海加俸ヲ支給ス但免乘ノ辭令受領ノ後公務ノ故ニアラスシテ在艦在船スルカ又ハ事務引繼ヲ終リ尙在艦在船スルトキハ免乘ノ辭令受領ノ翌日又ハ事務引繼ヲ終リタルノ翌日ヨリ航海加俸ヲ支給セズ
進級轉職等ニ依リ航海加俸ニ増減アルトキハ増減ハ辭令受領ノ日ヨリ減給ハ其ノ翌日ヨリ支給ス但進級轉職ト同時ニ轉勤轉職ヲ命シタルトキハ前項ノ例ニ依リ前官職相當ノ航海加俸ヲ支給ス

第二十五條 轉勤轉乘其ノ他ノ場合ニ在テハ其ノ當時所屬ノ職若クハ艦船ニ於テ本則第二十三條ノ定目ニ拘ハラズ左ノ區分ニ依リ俸給及加俸ヲ支給ス但シ明治二十三年勅令第五百十號ニ依リ本則第二十三條ニ依リ俸給上ケ支給ノ後轉勤轉乘ヲ命シタル場合ニ在テ支出科目(目)ニ異動ヲ生シ若ハ各其ノ給額ニ於テ過拂ト爲リタルトキハ外ハ特ニ追徴ヲ要セス其ノ旨ヲ現勤務ノ職若ハ艦船ニ通牒スルコトヲ得

二 待命、休職若クハ停職ヲ命シタルトキハ其ノ辭令受領ノ當日マテ

○海軍省達第四百六十六號

臺灣島及澎湖島駐在海軍軍人軍屬給與規則施行細則第一條第四中辭令受領ノ下ニ「若ハ官報ニテ承知」ノ八字ヲ加フ

明治三十一年十一月八日

海軍大臣侯爵西鄉從道

〔參照〕

海軍省達第四百二十九號臺灣島及澎湖島駐在海軍軍人軍屬給與規則施行細則(明治二十八年十一月三十日)抄錄

第一條 規則第三條ノ增給ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ給ス但シ航海加俸ヲ給スルトキハ增給ノ限ニアラス

四 待命、休職若クハ停職ヲ命セラレタル者ニハ其ノ辭令受領ノ日マテ但シ事務引繼ニ從事スルトキ又ハ殘務調理ノ命ヲ受ケタルトキハ結了ノ日マテ

○海軍省達第四百四十七號

造船造兵監督官會計官手當金支給細則第二條及第三條中辭令受領ノ下ニ「若ハ官報ニテ承知」ノ八字ヲ加フ

明治三十一年十一月八日

海軍大臣侯爵西鄉從道

〔參照〕

海軍省達第四百七十四號造船造兵監督官會計官手當金支給細則(明治三十年十二月十七日)抄錄

第二條 米國在留又ハ出張中ノ者ニシテ造船造兵監督官若ハ會計官ニ補セラレ仍ホ同一ノ地ニ滞在スルトキハ辭令受領ノ翌日ヨリ手當金ヲ支給シ若シ他ノ地方ニ赴キ服務スルトキハ其地到着ノ翌日ヨリ之ヲ支給ス

第三條 造船造兵監督官及會計官ニシテ米國出張中免官免職ノ者ニハ辭令受領ノ日マテ廢官廢職若ハ死亡ノ者ニハ其ノ當日マテ手當金ヲ支給ス

○陸達第四百六號

砲兵刀並徒歩刀ヲ廢シ之ニ代フルニ三十年式歩兵銃々劔ヲ以テス但シ漸次交換ス

明治三十一年十一月十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○海軍省達第四百四十八號

職工人夫給與規則中左ノ通改正ス

海軍大臣山本權兵衛

明治三十一年十一月十二日

第七條別表第六ノ欄第三項ヲ左ノ如ク改ム
 檣上及艦船煙突上其ノ他之ニ準スヘキ場所ノ服業
 同表備考ノ欄第四項ヲ左ノ如ク改ム
 船具工場ニ使役スル職工ニハ檣上及艦船煙突上其ノ他之ニ準スヘキ場所ノ服業ニツキ第六ノ加給ヲ爲サス

○陸達第四百七號

陸軍平時備人定員表別紙ノ通定ム
 但明治二十九年送乙第一八八五號達陸軍官衙校團隊玄關番以下定員表及同年送乙第四〇五九號達臺灣常設部隊玄關番以下定員表ハ廢止ス

陸軍大臣子爵桂 太郎

(別表)

陸軍平時備人定員表

區分	名	職	備考	計
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			
師團司令部	法	三		
	三			
區分	法	三		
	三			

○陸軍第八號

明治三十一年經理學校へ入校セシムヘキ監督學生及軍吏學生ノ入校時期ハ十二月七日ト定ム

明治三十一年十一月十五日 陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第九號

明治三十一年十二月一日ヨリ新發田兵器分廠ヲ置ク

明治三十一年十一月十八日 陸軍大臣子爵桂 太郎

○宮内省達甲第八號

樂師長職服左ノ通相定ム

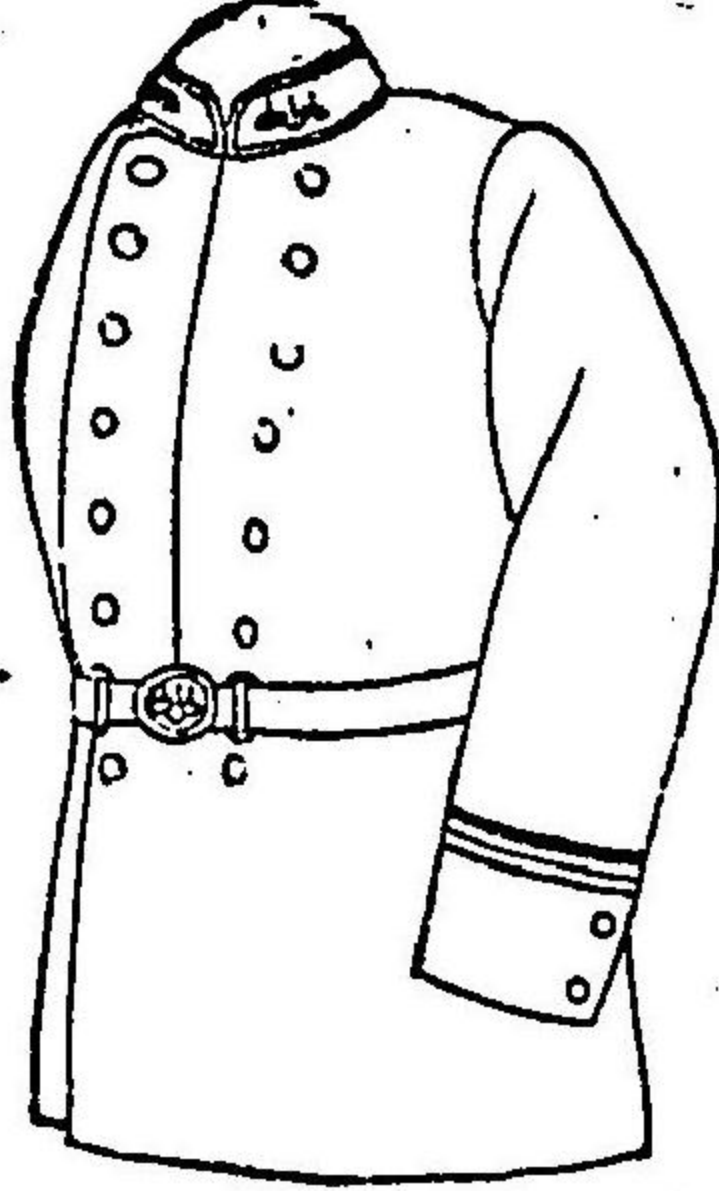

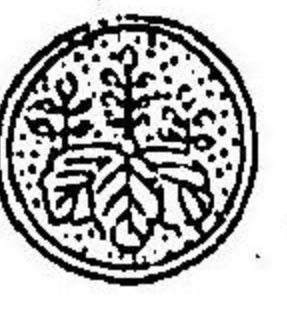
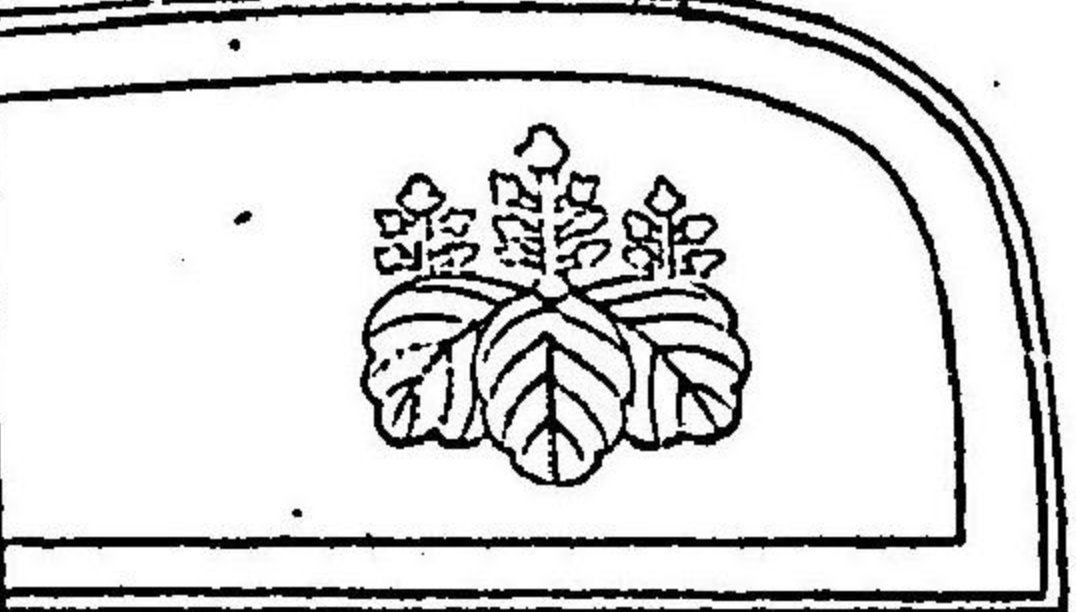
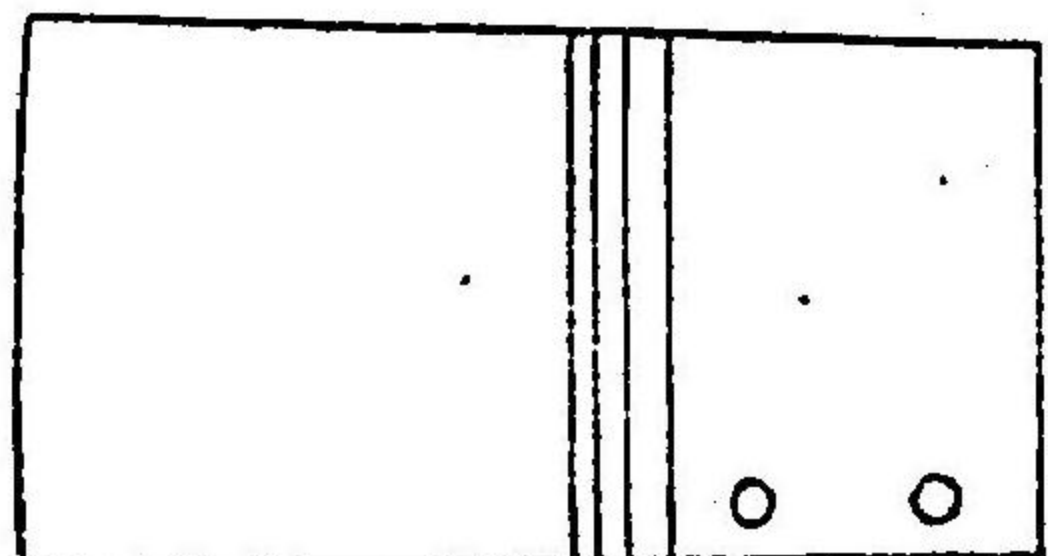
明治三十一年十一月十九日

奉 勅

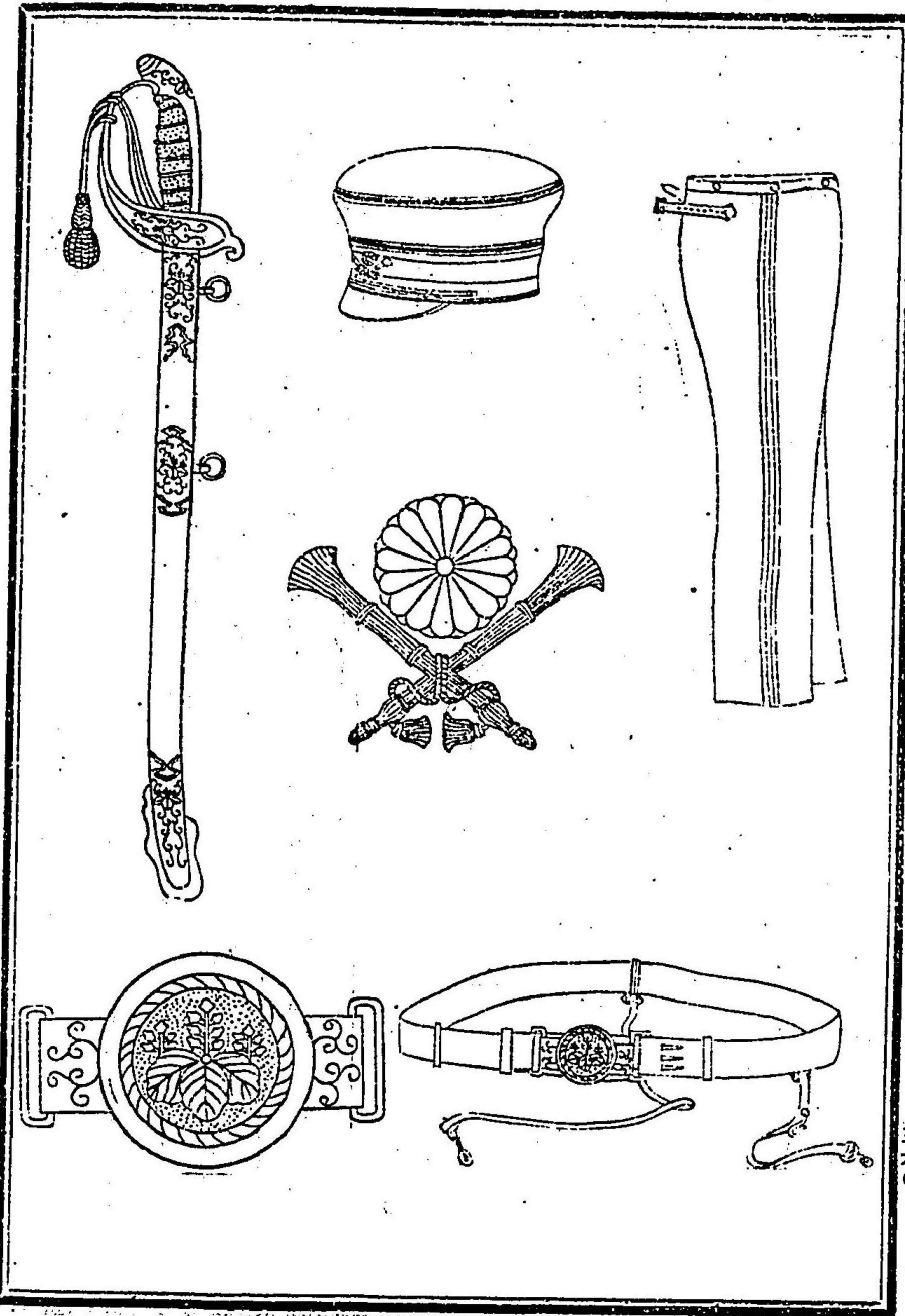
宮内大臣子爵田中光顯

樂師長職服徽章表

種	上		衣		袴
	地質	製式	領	袖	
普通ノ製	黒絨袖先及襟赤絨	短「フロックコート」製堅襟胸ニ重鈕釦七箇ニ行後面左右各ニ箇ヲ付ス	全縁ニ幅二分金線一條ヲ周ラシ其中襟ノ兩端ニ金色五七ノ桐ヲ縫付ス	幅一寸及五分ノ金線二條ヲ周ラシ鈕釦ニ箇ヲ付ス	黒絨
			金色線釦ヤ中石目地ニ五七ノ桐ヲ付ス大徑七分五厘小徑五分		

側	帽		側
	前	横	
側	金色菊御紋徑八分五厘金色遠喇叭長一寸六分	幅一寸ノ赤絨一條ヲ周ラシ其上ニ金線幅六分一條ヲ周ラス	圓形圖ノ如シ
側	柄白紋精黒革製長二尺鈎銅金具長五七ノ桐唐草彫刻模樣下ケ緒等圖ノ如シ	黒革製前章ハ鍍金ニテ五七ノ桐ヲ付ス	



○海軍省達第四百十九號
艦團部需用品定額表中左ノ追加ス (追加略ス)
但數量表ハ軍務局ヨリ送付セシム

明治三十一年十一月二十二日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第五百十號

海軍外國旅費規則中左ノ通改正ス

明治三十一年十一月二十五日

海軍大臣山本權兵衛

第三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

本則第四條ノ場合ニ於テ汽車船舶ノ客室ニ一等、二等、三等ノ區分アルトキハ旅費等級四等以上ノ者ハ(兵曹長同相)一等トシ兵曹長同相當官及五等ノ者ハ二等トシ六等及七等ノ者ハ三等トス但三等ナキトキハ總テ前項ノ區分ニ依ル

第四條 外國ニ於テ製造ノ艦船艇回航ノ爲メ出張スル隊伍ノ旅行ニハ汽車料船舶料ハ定價トシ准士官以上(兵曹長同相)ニ在テハ客舍料食卓料日當及支度料ハ別表ニ依リ之ヲ支給シ下士卒及傭人ニ在テハ日當ハ各其ノ定額ヲ支給シ客舍料食卓料支度料ハ支給セス但陸地宿泊ヲ要スルトキ下士卒及傭人ニハ旅費等級ノ區分ニ從ヒ各定額以內ヲ以テ客舍料ノ實費ヲ支給ス
前項ノ場合ニ於テ兵曹長同相當官及候補生ニ支給スル客舍料ハ八圓日當ハ二圓五十錢食卓料及支度料ハ別表ニ依リ之ヲ支給ス隊伍ノ旅行ニアラサル前發員モ亦同シ
准士官以上、候補生、下士卒及傭人ニシテ未タ授受ヲ了ラサル製造ノ艦船艇ニ乗組タルトキハ日當及食卓料ノ定額ヲ支給ス但糧食ヲ官給スルトキハ食卓料ヲ支給セス

〔參照〕

海軍省達第四百十九號海軍外國旅費規則(明治三十年十月二十六日)抄錄
第三條第二項

本則第四條ノ場合ニ於テ汽車船舶ノ客室ニ一等二等三等ノ區分アルトキハ旅費等級四等以上ノ者ハ一等トシ五等及六等ノ者ハ二等トシ七等ノ者ハ三等トス但三等ナキトキハ總テ前項ノ區分ニ依ル
第四條 外國ニ於テ製造ノ艦艇同航ノ爲メ出張スル隊伍ノ旅行ニハ汽車料船舶料ハ定價トシ准士官以上ニ在テハ客舍料食車料日當及支度料ハ別表ニ依リテ之ヲ支給シ下士卒及傭人ニ在テハ日當ハ各其ノ定額ノ半額ヲ支給シ客舍料食車料支度料ハ支給セズ但陸地宿泊ヲ要スルトキ下士卒及傭人ニハ旅費等級ノ區分ニ從ヒ各定額以內ヲ以テ客舍料ノ買費ヲ支給ス

○陸軍部令第十號

臺灣島及澎湖島駐荷陸軍部隊給與規則細則中左ノ通り改正ス

明治三十一年十一月二十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第九條第二項中「憲兵隊」ノ三字ヲ削リ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

運輸不便ノ地ニ服務スル憲兵隊下士以下ニハ食料ヲ支給ス其區域ハ別ニ之ヲ定ム

第十條第一項中「第二項」ノ下ニ「精米ハ附表第二表ノ定量ヲ該隊ニ交付シ隊長ニ其經理ヲ委任シ

又副食物ニ對スル」ノ三十一字ヲ加ヘ又「之ヲ定ム」ノ下ニ「又精米ヲ麵粉ニ換ヘ若クハ雜穀ヲ混用

スル場合ニ於テ各隊ニ交付ス可キ精米價格ハ補給廠長ノ指定ニ依ル」ノ四十七字ヲ加フ

〔參照〕

陸軍部令第五十二號臺灣島及澎湖島駐荷陸軍部隊給與規則細則(明治二十九年四月五日)抄錄

第九條第二項

准士官^{特等}以上、各官衙憲兵隊附下士以下及文官ニハ食料ヲ支給ス

第十條第一項

本規則第七條第二項ノ定額金交付ハ分チテ甲乙二種トス其ノ各種給與ノ場合ハ地方ノ情況ニ依リ補給廠長之ヲ定ム

○陸軍部令第十一號

憲兵服務規程左ノ通定ム但明治二十九年陸軍部令第十五號憲兵司令部服務規則並同年陸軍部令第十六號憲兵隊服務規則ヲ廢止ス

明治三十一年十一月二十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

憲兵服務規程

第一條 憲兵司令部ハ憲兵服務細則ヲ定メ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第二條 憲兵司令部及憲兵隊長ハ必要ニ依リ各部下隊長ヲ召致スルコトヲ得

第三條 憲兵隊長及憲兵分隊長ハ隊中ノ軍紀風紀訓練教育内務服裝衛生及經理事務ヲ司ル

第四條 憲兵隊長ハ部下下士官以下ニ職務ヲ課シ又ハ之ヲ各分隊ニ配屬轉換スルコトヲ得

第五條 憲兵隊長ハ各分隊ノ軍紀風紀訓練教育及職務履行ノ程度ヲ檢閲シ又必要ニ依リ管區内

ヲ巡視スルコトヲ得

第六條 憲兵分隊長ハ部下下士官以下ニ勤務ヲ命シ若クハ下士上等兵ヲ各憲兵屯所ニ配屬轉換シ又

必要ニ依リ警察區内ヲ巡視スルコトヲ得

第七條 副官ハ憲兵司令部又ハ憲兵隊長ノ命ヲ承ケ部内諸般ノ事務ヲ處理ス

第八條 軍吏ハ會計事務ヲ掌リ兼テ物品ノ保管ニ任ス

第九條 憲兵伍長ハ屯所長トシテ屯所ノ事務ヲ處理ス但シ一屯所ニ二伍以上ヲ置クトキハ高級故

參ノ伍長ヲ其ノ屯所長ト爲ス

第十條 憲兵ハ常ニ軍人軍屬ノ行爲ヲ觀察シ其ノ違式ヲ警防ス其ノ違式ニ涉ル行爲ヲ認メタルト

キハ現役軍人及軍屬ニ在リテハ本人所屬ノ上官ニ告知シ在郷軍人ニ在リテハ本人所轄ノ師團長

警備隊司令官或ハ聯隊區司令官警備隊區司令官ニ告知スヘシ

第十一條 憲兵ハ上官ノ別命アルトキ又ハ時機猶豫スヘカラサルトキハ定規ノ服裝ヲ爲サスレテ

勤務ヲ執ルコトヲ得

第十二條 憲兵ハ地方ノ情況ヲ知悉シ且發生セル事件ハ其ノ必要ニ依リ衛戍司令官要達司令官

警備隊司令官ニ通報スヘシ

第十三條 憲兵司令部及憲兵隊長不在ノトキハ高級副官若ハ副官ヲシテ其ノ事務ヲ取扱ハシム

第十四條 憲兵分隊長不在ノトキハ分隊副長之ヲ代理シ其ノ所在地ノ屯所長ヲシテ其ノ事務ヲ取扱ハシム

第十五條 屯所長不在ノトキハ高級古參ノ下士又ハ故參上等兵ヲシテ代理セシム

○陸軍第百十二號

今般憲兵隊編制表改正ニ依リ在臺灣各憲兵隊ノ職員ニシテ辭令ヲ用非サル者ハ改正編制表ニ於ケル相當職名ニ換稱ノ義ト心得フヘシ

明治三十一年十一月三十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第百十三號

明治三十一年陸軍第六十二號表式中左ノ通追加ス (追加略ス)

明治三十一年十二月三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

【參照】

明治三十一年六月二陸軍第六十二號陸軍報告例ナリ

○陸軍第百十四號

今般内閣ニ於テ每五年ニ調査スヘキ人口統計材料中別紙様式ノ條項必要ニ付本年十二月三十一日關ヲ以テ第一回トシ以後每五年即六年目ノ十二月三十一日ヲ期シ調査ノ上翌年二月盡日迄ニ差出スヘシ

明治三十一年十二月三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

(別紙)

種	別	所在地名	准士官	下士	兵卒	計	
						候補生	生徒
陸	歩兵第何聯隊	何府何市何區何町					
	騎兵第何聯隊	何縣何郡何村					
	工兵第何中隊	何縣何堡何庄					
		明治三十一年十二月三十一日 兵營學校及官衙准士官以下人員 (每五年調)					
		臺灣總督府 陸軍部 兵備部 兵務部 兵工廠 兵工廠 兵工廠					

陸	隊	計	某	學	(衛官) 校		計	合		(遣派) 荷 駐 國 外		計
					何縣何市何町	何縣何市何町		歩兵第何聯隊第何大隊第何中隊	何國何地			

一本表ハ十二月三十一日ニ於テ兵營、學校又ハ官衙ニ在ル現役准士官以下ノ人員ヲ該兵營、學校、官衙所在ノ市町村
 (三)ニ分テ記入スヘシ但准士官、下士、兵卒ニテ兵營、學校又ハ官衙外ニ居住スル者及病院、監獄
 ニ在ル者ハ表中ニ算入スヘカラス
 一逃亡中ノ准士官、下士、兵卒ハ現在人員ニ合セズ別行ニ算入スヘシ
 一屯田兵隊ニ在テ普通服役ニ依ル下士ハ本表ニ記入スヘシ

總	計	衛	成	病	院	所	在	地	名	准	士	官	下	士	兵	卒	候	補	生	計

一憲兵司令部ニ在テハ第十三第十四第十五憲兵隊ノミヲ報告スヘシ
 一陸軍陸軍衛官、同守備旅團、要務砲兵隊、外國駐劄兵(派遣)ニ在テハ悉ク現員(本表ニ算入スル)ヲ記入ス
 (シ)但兵營ニ在ル者ハ(×)官舎ニ在ル者ハ(△)外泊ノ者ハ(○)ノ符號ヲ附シテ其區別ヲ明ニスヘシ
 一外國駐劄兵(派遣)ニ係ルモノハ原所管ヨリ報告スヘシ

總	計	衛	成	監	獄	所	在	地	名	准	士	官	下	士	兵	卒	候	補	生	計

一本表ハ十二月三十一日ニ於テ監獄ニ在ル現役准士官以下ノ人員ヲ記入スヘシ但營外居住ノ者ニシテ入監中ノ者ハ
 表中ニ加フヘカラス

○海軍省達第五百五十一號
雇員備人規則中左ノ通改正ス

明治三十一年十二月六日
第二條左表中守衛ノ次へ左ノ二欄ヲ加フ

工	手	要港部修理工場
坑内取締	新原探炭所	
工	夫	要港部修理工場

海軍大臣山本權兵衛

第三條左表中坑内取締ノ一欄ヲ削除シ經師ノ次へ左ノ一欄ヲ加フ

○海軍省達第五百五十二號

雇員備人給與規則別表雇員給料最上限表中「器械手」ノ次ニ「工手」其次ニ「坑内取締」ヲ加ヘ備人給料最上限表中「舟夫長」ノ次ニ「工夫」ヲ加ヘ「坑内取締」ヲ削除ス

明治三十一年十二月六日

海軍大臣山本權兵衛

○陸軍省達第五百五十五號

砲兵鞍馬具中駿馬族囊ノ制式ヲ別紙圖面ノ通改正ス (別紙略ス)
但シ既製ノ分ハ其儘應用シ新製ノ分ヨリ改正ス

明治三十一年十二月七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○海軍省達第五百五十三號

四季及小演習用消耗兵器年額表中「陸軍省物破應用藥種」ノ次ニ左ノ通追加ス

明治三十一年十二月七日

海軍大臣山本權兵衛

海底水雷									
浮漂水雷									
觸發水雷									
機軸水雷									

○海軍省達第五百五十四號

明治二十四年達第百八十四號貸與品表中へ左ノ二廉ヲ加フ

明治三十一年十二月八日

海軍大臣山本權兵衛

品名	所	要	記	事
帆布又ハ古帆布古	軍需品ヲ運搬スル艦船ニ於テ石炭運搬ノ爲メ須要ノ時			
機軸中	候補生實地演習ノ爲メ乘艦ノ時			

○陸軍省達第五百五十六號

明治三十年十二月陸軍省達第百六十三號別紙備考中左ノ一項ヲ追加ス

明治三十一年十二月九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

三 臺灣守備步兵大隊ニ在テハ步兵獨立大隊旗ノ下ノ方ニ赤字ヲ以テ第何大隊ト記ス

〔參照〕

明治三十年十二月陸軍省達第百六十三號ハ步兵大隊旗制定ノ件ナリ

○海軍省達第五百五十五號

海軍省處務細則中左ノ通改正ス

明治三十一年十二月十日

海軍大臣山本權兵衛

第十五條但書ヲ左ノ如ク改ム

但大臣親展書類ハ祕書官ニ於テ接受シ其ノ人事ニ關スルモノハ人事課長ニ於テ接受ス

第二十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム
件名簿ハ官房號、機密號及祕人號ノ三種トシ官房號、機密號ハ官房ニ備ヘ置キ祕人號ハ人事課ニ備ヘ置クモノトス

〔參照〕

海軍省達第四十三號海軍省處務細則(明治三十年四月一日)抄録

第十五條 大臣次官又ハ本省ニ宛テ到來スル公文ハ大臣官房ニ於テ接受スルモノトス但大臣親展書類ハ祕書官ニ於テ接受ス

第二十三條第二項

件名簿ニハ公文ノ接受發送月日件名、原簿、印、シ、ハ、等ヲ記入シ各一頁ノ番號ヲ附シ同時ニ該番號ヲ公文ニ附貼スヘシ

○海軍省達第五百五十六號

海軍各屬處務通則中左ノ通改正ス

明治三十一年十二月十日

海軍大臣山本權兵衛

第十三條ヲ第十三條甲トシ同條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十三條乙 各屬ヨリ發スル祕書書類ハ其ノ封筒面ニ親展ト書シ其ノ人事ニ關スルモノハ更ニ(人)ト書スヘシ

○海軍省達第五百五十七號

艦隊職員勤務令中左ノ通改正セラレ

明治三十一年十二月十日

海軍大臣山本權兵衛

第八十條中庶務ヲ整理ノ下ニシ幕僚所屬ノ金櫃ヲ保管シ及之ニ關スル會計事務ヲ整理ノ二十五字ヲ加ヘ第五百五條ノ次ニ左ノ諸條ヲ追加シ第六六條以下順次繰下ク

第六六條 主計長ハ艦隊艦船ノ會計事務及給與ニ關スルコトヲ詳知スヘシ

第六七條 主計長ハ其ノ主務ニ關シ司令長官ニ具申若クハ報告スル場合ハ總テ參謀長ヲ經由スヘシ

第六八條 主計長ハ司令長官檢閱ノ時隨從シ左ノ諸項ヲ閱視スヘシ

一 金櫃ノ現況及經費ノ準備出納保管ノ適否

二 被服物品ノ準備貯藏及出納保管ノ適否

三 糧食品ノ準備貯藏配給及出納保管ノ適否

四 主計長主管需品ノ準備貯藏及出納保管ノ適否

五 金錢物品ニ關スル帳簿及計算書類ノ整否及記註ノ可否

六 軍艦經費爲替拂順序施行上ノ可否

七 庶務ノ整否及法令規則ノ加除改正等訂正シアルヤ否

前諸項ノ外會計給與上處分スヘキ事項處分ノ了否其ノ他主務ニ關シ必要ト認ムル事項

第六九條 主計長ハ常ニ其ノ監督ニ關スル金櫃及其ノ會計事務ノ整理ヲ監視シ機動費ノ準備及之

カ支出ノ當否ヲ精査スヘシ

第七十條 主計長ハ常ニ艦隊艦船ノ被服糧食ノ準備及支出現況ニ注意シ被服糧食ニ關スル諸規程

訓令等ノ施行ヲ監視シ其ノ施行ノ周到ヲ期スヘシ又役務ノ必要ニ依リ被服物品若クハ糧食品ノ

準備ニ關シ意見アルトキハ司令長官ニ具申スヘシ

第七十一條 主計長ハ艦隊艦船ノ會計給與ニ關スル諸報告、上申、伺等ヲ審査シ其ノ指令スヘキモ

ノハ指令案ヲ起草シ又意見アルモノハ意見ヲ付シ司令長官ニ差出スヘシ

第三百十二條 主計長ハ常ニ艦隊艦船ノ會計給與上能ク節約ノ趣意ヲ遵守スルヤ否ニ注意シ特ニ物品ノ購買ニ關シテハ能ク其ノ手續ヲ盡シタルヤ否ヤヲ監視シ意見アルトキハ司令長官ニ具申ス

第三百十三條 主計長ハ其ノ主務ニ關シ艦隊艦船ノ主計長ヲ召喚シ臨時報告ヲ徴シ訓令ヲ發シ若クハ補助ヲ要スルコトアルトキハ司令長官ニ具申ス

第三百十四條 主計長ハ常ニ艦隊艦船ノ會計及給與事務ノ進行ニ注意シ各艦船ニ於テ處分スヘキモノハ成ルヘク速ニ其ノ處分ヲ結了セシメ若シ其ノ事務ノ進行上ニ關シ報告ヲ要スルトキハ主計長ヲシテ之ヲ報告セシメ又臨時閱視ヲ要スルトキハ司令長官ノ認可ヲ得テ之ヲ行フコトヲ得

第三百十五條 主計長ハ其ノ主務ニ關シ艦隊艦船ノ帳簿其ノ他書類ノ調査ヲ必要ト認ムルトキハ司令長官ノ認可ヲ得テ艦船長ニ照會シ主計長ヲシテ之ヲ提出セシメ若クハ之ヲ臨檢スルコトヲ得

〔參照〕

海軍省達第百六十八號艦隊職員勤務令(明治二十七年十一月十日)抄錄
第八十條 秘書ハ艦隊條例ニ示ス如ク庶務ヲ整理スルノ外軍機ニ涉ラサル秘密文符ヲ掌リ官印ヲ監守ス

○陸軍部百十七號

本年三月陸軍第二十八號中部隊號ノ欄歩兵第三十一聯隊ノ次ニ「輜重兵第八大隊」ノ七字ヲ追加ス
明治三十一年十二月十二日 陸軍大臣子爵桂 太郎

〔參照〕

明治三十一年十二月十二日 陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部百十八號

戰時金櫃行李製式ハ左記ノ外明治二十年一月陸軍第二號公用行李ノ製式ト同一ト定ム
明治三十一年十二月十二日 陸軍大臣子爵桂 太郎

- 一 内部ニ桐製ノ箱ヲ裝置ス
- 二 外部及内箱ニ各二箇異種ノ錠ヲ付ス

○海軍省達第百五十八號

雇員備人規則第三條別表備考中第五項ヲ左ノ通改ム

明治三十一年十二月十五日

海軍大臣山本權兵衛

五 軍艦ニ半定員若クハ留守定員ヲ置キ又ハ未成艦ニ人員ヲ置クトキハ本表ノ人員ヲ半數以下ニ減スルモノトス

○海軍省達第百五十九號

海軍文官進級增俸取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十一年十二月十五日

海軍大臣山本權兵衛

第五條第一項中「五月一日十一月一日」ヲ「三月一日九月一日」ニ「五月十一月」ヲ「三月九月」ニ改メ同條第四項ヲ左ノ如ク改ム

一 侍從武官ニ屬スル海軍文官ノ拔擢ハ首席海軍將校タル侍從武官ニ於テ又東宮武官ニ屬スル海軍文官ノ拔擢ハ首席海軍將校タル東宮武官ニ於テ各前項ニ準シ具狀ス

第六條中「文官ノ進級若クハ增俸具狀ヲナスニハ左ノ書式ニ依ルヘシ」ヲ「文官ノ增俸具狀ヲナスニハ左ノ書式ニ依ルヘシ進級具狀モ亦之ニ準ス」ニ改ム

第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ從前ノ第六條ヲ第七條ニ第七條ヲ第八條ニ改ム

第六條 前諸條ニ依リ難キ者アルトキハ其理由ヲ具シ臨時增俸ヲ具申スルコトヲ得

〔參照〕

海軍省達第百四十八號海軍文官進級增俸取扱規則(明治三十年十月二十五日)抄錄
第五條 文官ノ進級增俸ハ毎年五月一日、十一月一日ヲ以テ調査ノ期トシ其日ノ現在員ニ就キ五月、十一月ニ於テ左ノ諸項

一 役り移居者ハ其狀スヘシ
一 侍從武官ニ關スル海軍文官ノ増補被擢ハ前項ニ準シ先任海軍將校タル侍從武官ニ於テ其狀ス
第六條 文官ノ進級者ハ附件其狀ヲナスコトハ左ノ形式ニ依ルヘシ

○宮内省達第九號

明治二十五年宮内省達第五號華族就學規則中左ノ通修正ス

華族

奉勅

宮内大臣子爵田中光顯

第八條中「年月以下十六字ヲ刪除ス」
第十條ヲ左ノ通改ム

疾病傷痍ニ由リ六箇月以上就學ノ延期ヲ要スル者又ハ三箇月以上引續キ學業ヲ休止セサルヲ得サル者又ハ痲疾不具若クハ體質虛弱ニシテ普通教育ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ體質ニ適當ナル學業ヲ修メシムルトキハ其ノ方法ヲ詳記スヘシ

第十二條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第十四條ノ修學ヲ完成シ其ノ目的ノ學科ニ就ク者ハ爵位局長ニ届出ツヘシ

第十八條ノ但書ヲ刪除ス

第十九條中「宗族」以下十字ヲ刪除ス

第二十一條中「歸朝シタル者」以下「尙ホ本則ノ規定ニ依リ修學ヲナスヘキモノトストアルヲ」更ニ修學ノ方法ヲ詳記シ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシニ改ム

第二十四條刪除

第二十五條ヲ第二十四條トシ同條中「學校長」以下十四字及但書ヲ刪除ス

第二十四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十五條 第十三條ノ許可ヲ得テ海外ニ留學シタル者ハ其ノ修學ノ場所ヲ爵位局長ニ届出ツヘシ其ノ留學中ノ成績ハ歸朝ノ後宮内大臣ニ詳細届出ツヘシ

〔參照〕

宮内省達第五號華族就學規則(明治二十五年八月十二日)抄録

第八條 第七條ノ年齢ヲ過タルノ後尙ホ學習院ニ入學シ難キ者ハ其事由ヲ詳記シ年月ヲ豫期シ宗族親屬ノ連署ヲ以テ宮内大臣ニ延期ノ認可ヲ請フヘシ

第十條 疾病傷痍ニ由リ一時就學ノ延期ヲ要スル者アルトキハ爵位局長ニ届出ツヘシ

痲疾不具又ハ體質虛弱ニシテ學齡ニ至リ普通教育ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ體質ニ適當ナル學業ヲ修メシムルトキハ其ノ方法ヲ詳記シ爵位局長ニ届出ツヘシ

第十二條 學習院初等學科ヲ修了シテ退學シタル者又ハ之ニ相當スヘキ普通學科ヲ修了シタル者ニシテ專門ノ學校ニ入ラント欲スル者ハ其ノ學校ノ名稱學科ノ種類等ヲ詳記シ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十八條 學齡中ニ於テ第三條ノ學科程度ヲ修了シタル後止ムヲ得サル事由アリテ學習院セントスル者アルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ宮内大臣ノ許可ヲ請フヘシ

但シ後見人ヨリ願出ツル場合若クハ成年ニ達シタル戸主隱學セントスル場合ハ宗族親屬ノ連署ヲ要ス

第十九條 戸主又ハ嫡長子孫ヲ除クノ外第三條ノ學科程度ヲ修了スルニ至ラズシテ後來自活ノ計ヲ爲サンカ爲メ隱學セサルヲ得サル者アルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ宗族親屬ノ連署ヲ以テ宮内大臣ノ許可ヲ請フヘシ

但シ學習院初等學科又ハ之ニ相當スヘキ普通學科ヲ修了シタル者ニテラサレハ之ヲ許サス

第二十一條 學習院學則第十五條ニ依リ事故ヲ以テ退學シタル者及陸海軍學校又ハ其ノ他ノ專門學校ニ於テ修學中中途ニシテ退學シタル者若クハ海外留學中中途ニシテ歸朝シタル者ハ尙ホ本則ノ規定ニ依リ修學ヲナスヘキモノトス

第二十四條 學習院外ニ於テ修學中ノ者三箇月以上引續キ休學セサルヲ得サル事故アルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ爵位局長ニ届出ツヘシ

第二十五條 學習院外ニ於テ修學スル者ハ毎年一回學年ノ終ニ於テ其修業シタル成績ヲ記載シ學校長若クハ教師ノ證明ヲ求メ爵位局長ニ届出ツヘシ

但シ海外留學ノ者亦本條ノ例ニ準ス

○陸達第百十九號

軍馬補充部福元支部派出部ヲ宮崎縣西諸縣郡高原村大字大鹿倉ニ置キ軍馬補充部福元支部高原派

出部ト稱ス

明治三十一年十二月二十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○宮内省達乙第二號

青山離宮内假東宮御所參入ノ聲昇降下乘制限左ノ如ク相定ム
但シ時ニ臨ミ特ニ示達スル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

明治三十一年十二月二十一日

宮内大臣子爵田中光顯

一高等官及高等官ノ待遇ヲ受クル者並有爵者從六位勳六等以上ノ輩及門跡寺院ノ住職ハ新年及東宮御誕辰參賀ノ節ニ限リ乘車馬ノ儘御車寄ニ至リ昇降スルコトヲ得其ノ他ノ場合ハ都テ乘車馬ノ儘車寄ニ至リ昇降スヘシ

一正七位勳七等以下ノ有位有勳者ハ都テ乘車馬ノ儘西門ヲ入り車寄ニ至リ昇降スヘシ

○陸軍部百二十號

明治三十年陸軍第七十二號陸軍里程表別冊ノ通改正シ明治三十二年一月一日ヨリ施行ス(別冊略ス)

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部百二十一號

兵器取扱規則別冊ノ通定ム

但明治二十五年陸軍第三十號平時要塞備砲使用假規則明治二十七年陸軍第六十七號兵器彈藥取扱規則明治二十九年陸軍第六十八號臺灣兵器彈藥取扱規則明治三十年陸軍第一百十一號歩工兵器具材料取扱規則及明治三十年陸軍第一百十二號輜重兵器具材料及蹄鐵器具取扱規則ハ廢止ス
明治三十一年十二月二十六日
陸軍大臣子爵桂 太郎

(別冊)

兵器取扱規則

第一章 總則

第一條 本規則ハ平時ニ於テ兵器ヲ整備シ專ラ戰時ノ供用ヲ完全ナラシムル爲メ其方法ヲ定ム

第二條 本規則ニ於テ兵器ト稱スルハ第一表ニ掲クル武器第二表ニ掲クル彈藥第三表ニ掲クル器具及第四表ニ掲クル材料制式未定若クハ舊式ノ兵器ニシテ現ニ軍用ニ充ツルモノハ前項各表ノ兵器ニ準シ取扱フモノトス

第三條 本規則ニ於テ兵器除ク彈藥ヲ類別シテ三類トス
第一類 刀劍 射擊用槍 銃 砲 砲架 架匡 匡床 砲兵車 輜機關車 客車 普通鐵道用貨車 緩急車 土運車 轉車盤 切落旋盤 鐵桁 大抵抗權衡器 電信機 反射電流計 繫留氣球 輕氣球用寫真器械 回光通信器 野戰電燈 海岸砲用測遠器
第二類 トシ 其他ノモノヲ第三類トス(第五表)

第四條 本規則ニ於テ本廠、支廠分廠ト記スルハ陸軍兵器本廠同支廠同分廠ヲ云ヒ工廠ト記スルハ砲兵工廠ヲ含ム所ヲ云ヒ軍隊ト記スルハ憲兵 歩兵 騎兵 砲兵 工兵ヲ含ム輜重兵ノ各隊、屯田兵隊、警備隊及軍樂隊ヲ云ヒ學校ト記スルハ生徒隊若クハ教導隊ヲ有スル校、團並砲兵工科學校ヲ云ヒ官衙ト記スルハ陸軍諸官衙部ヲ含ム及生徒隊若クハ教導隊ヲ有セサル學校砲兵工科學校ヲ云フ

第五條 本規則ニ於テ本廠長、支廠長ト記スルハ陸軍兵器本廠長、同支廠長ヲ云ヒ隊長、校長ト記スルハ前條ニ掲クル軍隊若クハ學校ノ長ヲ云フ

第六條 本規則中支廠長並支廠ノ爲メニ記スルモノハ總テ臺北兵器本廠長及同本廠ニ適用ス

第七條 本規則ニ於テ第一表乃至第四表ニ掲載スル名稱ノ物品ヲ製造シ若クハ調辨スルヲ總テ新調ト稱シ同表ニ掲載スル名稱ノ物品ヲ修理シ若クハ其物品中ノ一部分ヲ爲スモノヲ調辨スルヲ修理ト稱ス

第八條 木規則ニ於テ本須ト稱スルハ本廠貯藏ノ兵器ヲ云ヒ支須ト稱スルハ支廠分廠貯藏ノ兵器ニシテ之ヲ分テ第一及第二支須トス其第一支須ハ官衙所要及豫備ヲ云ヒ第二支須ハ其他ノモノヲ云フ

第二章 管理保管

第九條 兵器ハ平時之ヲ別テ本廠支廠分廠、要塞及築城部支部、軍隊、學校ニ配備シ其管理保管ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 本須ハ本廠長之ヲ管理シ且ツ保管ノ責ニ任ス
 - 二 第一支須ハ本廠長之ヲ管理シ支廠長保管ノ責ニ任ス
 - 三 第二支須ハ師團長若クハ臺灣守備混成旅團長ニ在テハ要塞司令官ノ之ヲ管理シ支廠長保管ノ責ニ任ス但シ動員計畫上師團長、要塞司令官ノ主管ニ係ラサル特設部ニ要スルモノニ在テハ本廠長之ヲ管理ス
 - 四 要塞備附兵器ハ要塞司令官若クハ警備隊司令官之ヲ管理シ支廠長若クハ築城部支部長保管ノ責ニ任ス
 - 五 軍隊保管兵器ハ師團長、臺灣守備混成旅團各隊ニ在テハ旅團長、兵隊ニ在テハ該隊長、之ヲ管理シ隊長保管ノ責ニ任ス
 - 六 學校保管兵器ハ教育總監、砲兵工科學校ニ在テハ之ヲ管理シ校長保管ノ責ニ任ス
- 第十條 軍隊、學校ノ保管ニ係ル兵器ノ取扱ヲ支廠ニ於テ爲スモノハ左ノ區域ニ據ルモノトス但兵器ノ新調修理並檢定ハ適宜附近支廠ニ於テ取扱フモ妨ケナシ
- 東京支廠 近衛及第一師管内ノ軍隊、學校 要塞砲兵隊及要塞砲兵射擊學校
 - 仙臺支廠 第二師管内ノ軍隊
 - 弘前支廠 第八師管内ノ軍隊

札幌支廠	第七師管内ノ軍隊 要塞砲兵
名古屋支廠	第三師管内ノ軍隊
金澤支廠	第九師管内ノ軍隊 要塞砲兵
大阪支廠	第四師管内ノ軍隊 要塞砲兵
姫路支廠	第十師管内ノ軍隊 要塞砲兵
廣島支廠	第五師管内ノ軍隊 要塞砲兵
九龍支廠	第十一師管内ノ軍隊 要塞砲兵隊及
熊本支廠	第六師管内ノ軍隊 要塞砲兵
小倉支廠	第十二師管内ノ軍隊 要塞砲兵
橫須賀支廠	東京灣要塞砲兵聯隊 要塞砲兵射擊學校
函館支廠	函館要塞砲兵大隊
由良支廠	由良要塞砲兵聯隊 砲門要塞所在地要
鳴門支廠	鳴門要塞所在地要塞砲兵隊
舞鶴支廠	舞鶴要塞砲兵大隊
忠海支廠	藝伎要塞砲兵大隊
吳支廠	吳要塞砲兵聯隊
下ノ關支廠	下ノ關要塞砲兵聯隊
佐世保支廠	佐世保要塞砲兵聯隊 長崎屯在ノ要塞
長崎支廠	長崎屯在要塞砲兵隊
對馬支廠	對馬屯在ノ軍隊

臺北木廠

臺灣守備混成第一旅團守備管區内ノ軍隊及澎湖島要塞砲兵大隊

臺中支廠

臺灣守備混成第二旅團守備管區内ノ軍隊

臺南支廠

臺灣守備混成第三旅團守備管區内ノ軍隊

第十一條

官衙所要兵器ハ第六表ノ區分ニヨリ支廠ニ於テ取扱フヘシ

第十二條

軍隊ニ在テハ兵器ノ整理ヲ掌ラシムル爲メ左ノ兵器委員ヲ置キ隊長之ヲ撰任ス但獨立

中隊以下ノ軍隊ニ在テハ適宜委員ヲ設クルモノトス

少佐若クハ大尉

一人 首座

大尉若クハ中尉

一人乃至三人

第十三條

隊長ハ保管兵器整理一切ノ責ニ任シ兵器委員ヲシテ各其事務ヲ擔當セシム

第十四條

首座委員ハ隊長ニ對シ兵器整理ノ責ニ任シ委員ヲ指揮シ兵器彈藥費ノ經理事務ヲ整頓

ス

第十五條

委員ハ兵器ノ支給、交換、貯藏、保存、工場ノ監視及新調、修理品等ノ検査ヲ掌ル

第十六條

委員ハ下士若干名ヲ撰ミ隊長ニ上申シ助手トシテ細務ニ服セシム

第十七條

學校ニ在テハ第十二條乃至第十六條ニ準シ委員ヲ設ケ兵器ノ整理ヲ掌ラシム

第二章 検査

第十八條

兵器ノ検査ハ分テ定期及臨時ノ二トス

第十九條

定期検査ハ専ラ兵器ノ數量及其手入ノ長否ヲ檢シ臨時検査ハ専ラ其整理及保存ノ如何

ヲ檢ス

第二十條

定期検査ハ毎年一回行フモノニシテ其検査官ハ各管理官トス但シ憲兵隊ニ在テハ各隊

長ヲレテ検査ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十一條

臨時検査官ハ陸軍大臣特ニ之ヲ命ス

第二十二條 定期若クハ臨時検査終レハ各検査官ハ其成績ニ意見ヲ添ヘ順序ヲ經テ陸軍大臣ニ報告ス

第四章 費用

第二十三條 本廠、支廠、築城部支部、臺灣陸軍補給廠及軍隊、學校ニ於テ管理スル費用左ノ如シ

一本廠、支廠

兵器ノ新調ニ係ル費用

一築城部支部

兵器ノ修理手入ニ係ル費用

一臺灣陸軍補給廠

兵器ノ運搬ニ係ル費用

一軍隊、學校

兵器ノ新調ニ係ル費用

臺灣屯在ノ軍隊ニ在テハ前項ノ外兵器ノ荷造ニ係ル費用ヲ管理セシム

兵器ノ修理手入ニ係ル費用

第二十四條

軍隊、學校ニ在テハ前項ノ外兵器ノ荷造ニ係ル費用ヲ管理セシム

第二十五條

軍隊、學校ニ於ケル費用ノ仕拂ハ首座委員ノ承認セシ證書ヲ以テ其手續ヲ爲スモノトス

第五章 新調修理

第二十六條

左ニ掲ケル兵器ハ陸軍大臣之ヲ工廠ニ命シテ製造セシメ若クハ本廠ニ命シテ調辨セ

シム而シテ其費用ハ本廠

屯田兵器ニ在ヨリ支出セシム

一 第一類兵器並分數交換ニ要スル第二類兵器

二 新規支給ニ要スル兵器
 三 各種彈藥第四十六條第五十四條第五十七條第二項ニ掲
 四 前三項ノ外特ニ令達アルモノ
 前各項ニ掲クル兵器ノ外ハ本廠、支廠、築城部支部若クハ軍隊、學校ニ於テ調辨ス但シ修理手入用材料ヲ除クノ外ハ臺灣屯在ノ軍隊ニ在テハ兵器廠、屯田兵隊ニ在テハ札幌支廠ニ於テ調辨スルモノトス

第二十七條 軍隊、學校ニ於テ兵器ヲ新調セントスルトキハ兵器委員其品目員數表注文ヲ製シ隊長若クハ校長捺印ノ上支廠ニ託シ該費用ハ當該軍隊、學校ノ管理費用ヲ以テ支辨ス但シ東京大阪屯在ノ軍隊、學校ニ在テハ直チニ工廠ニ託スヘシ
 築城部支部保管ノ兵器ヲ新調セントスルトキモ亦前項ノ手續ニ準ス
 第七表ニ掲クル兵器ハ第一項ノ手續ニ據ラス軍隊、學校ニ於テ直ニ製造若クハ調辨スルコトヲ得

第二十八條 兵器廠ニ於テ兵器ヲ新調セントスルトキハ本、支廠長ハ第二類兵器及彈藥ニ在テハ工廠ニ注文シ第二類兵器ニ在テハ工廠ニ注文シ若クハ他ヨリ調辨ス但シ支廠ニ於テ第二十七條第一項及第二項ノ注文ヲ託セラレタルトキモ亦同シ
 要塞所在地支廠ニ於テ兵器ヲ新調セントスルトキハ其修理所ニ於テ製造スルモノトス但シ製造シ得サルモノハ前項ニ準シ工廠ニ注文シ若クハ他ヨリ調辨ス又軍隊、學校若クハ築城部支部ノ兵器ヲ製造若クハ調辨シタルトキハ其費費ヲ當該軍隊、學校若クハ築城部支部ヨリ支拂フモノトス

第二十九條 兵器ノ修理ハ工廠、軍隊、學校並要塞所在地支廠ニ於テ執行ス但シ軍隊、學校ニ於テハ第八表ニ掲クルモノ、修理ヲ許サス

第三十條 軍隊、學校ニ於テ第八表制限内兵器ノ修理並制限外ト雖トモ修理シ能ハサル兵器ノ修理及築城部支部保管兵器ノ修理ヲ要スルトキハ第二十七條第一項及第二項並第二十八條ノ手續ニ據ル

第三十一條 軍樂器ノ修理ハ前二條ノ手續ニ據ラス軍隊、學校ニ於テ直チニ處辨スヘシ

第三十二條 軍隊、學校内ニ於テスル兵器ノ製造、修理ハ監護工(下)長及兵卒ヲシテ之ニ從事セシム但シ學校及屯田兵隊ニ在テハ職工ヲ僱役スルコトヲ得

第三十三條 軍隊、學校及要塞所在地支廠ニ在テ新調修理ニ要スル材料中第九表ニ掲クル品目ハ必ス工廠ノ製作ニ係ル半成品ヲ使用スヘシ但シ其購買ノ手續ハ第二十七條第一項及第二十八條ニ據ル

第三十四條 支廠及軍隊保管兵器ノ手入ハ兵卒ヲ以テ施行スルモノトス但シ支廠分廠及屯田兵隊ニ於テハ管理費用内ヲ以テ職工ヲ僱役スルコトヲ得

第三十五條 支廠保管兵器ノ手入ニ兵卒ヲ要スルトキハ支廠長分廠ニ在テハ分廠附下士所要ヲ計リ所在地高級團隊長ニ請求ス但シ東京支廠ニ在テハ近衛若クハ第一師團長ニ請求ス

第六章 支給交換

第三十六條 左ニ掲クル補給ハ本廠長直チニ之ヲ執行ス
 一 兵器表ニ基ク支給
 二 勤員計畫訓令ニ基キ特ニ要スル兵器ノ支給
 三 第二類兵器ノ交換

第三十七條 左ニ掲クル補給ハ當該官衛長官ノ請求ニ據リ支廠長直チニ之ヲ執行ス但シ第六及第七項ハ衛戍司令官ノ請求ニ據ルモノトス
 一 官衛ニ要スル兵器ノ支給交換

二 見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、見習軍吏、豫備後備見習士官各部ノ者ヲ含ム以下同シ、並定員外見習士官用刀劍ノ支給

三 演習用彈藥

四 近衛守衛隊用彈藥ノ補給

五 弔發及禮砲用彈藥ノ補給

六 非常及正午號砲用彈藥ノ補給

七 衛戍服務用彈藥ノ補給

第三十八條 第一類兵器ハ全ク其用ニ堪ヘサルニ至リ交換ス而シテ其交換期ハ毎年六月及十二月トス但シ第一類兵器中屬品ノミニ係ルモノハ第三類兵器ノ取扱ニ準シ處理スルモノトス

臺灣屯在ノ軍隊及屯田兵隊ノ兵器ニ在テハ類別ヲ問ハス總テ前項ニ據ルモノトス

第三十九條 第一類兵器ノ交換ハ支廠長ノ檢定書ヲ添ヘ各保管者ヨリ管理官ニ上申シ同官ハ之ヲ一纏メトナシ交換期ノ前月二十日迄陸軍省ヘ陸軍大臣ニ申請ス但シ時宜ニ據リ支廠長ノ檢定書ニ代フルニ本廠長ノ檢定書ヲ以テスルモ妨ケナシ

第四十條 第二類兵器ハ分數交換表(第十表)ニ據リ毎年六月交換ス其員數ハ當該本廠長之ヲ調査シ前々年度會計年度十二月盡日迄ニ陸軍大臣ニ上申スヘシ

第四十一條 第三類兵器及分數交換ヲ行ハサル第二類兵器ハ各管理ノ費用ヲ以テ整備スルモノトス

第四十二條 臺灣屯在ノ軍隊及屯田兵隊ニ要スル第二、第三類兵器ノ補給ハ前二條ノ規定ニ據ラズ隊長之レカ理由ヲ悉クシ臺灣守備混成旅團長若クハ第七師團長ニ上申シ同官ノ請求ニ據リ臺北兵器本廠長若クハ札幌支廠長之ヲ執行ス但シ基隆及澎湖島要塞砲兵隊並臺灣屯在憲兵隊ニ在テハ隊長ヨリ直チニ請求スルモノトス

第四十三條 演習用彈藥ハ毎年十二月運搬不便ノ地ニ在テハ此時定期ヲ適宜伸縮スルコトヲ得定數ヲ支給ス但シ海岸砲並攻守

城砲機關砲用彈藥ニ限リ種類ヲ變更シテ支給ヲ受クルコトヲ得此場合ニ在テハ隊長若クハ校長ハ支給期前ニ當該支廠長ニ協議シ支廠長ハ第一支須ノ定數ト當該軍隊、學校ノ定數ニ應スル費額内トニテ支給數ヲ定メ本廠長ノ認可ヲ經ルヲ要ス

軍隊、學校ニ在テハ毎年消費セシ演習用彈藥ノ明細書ヲ製シ十一月盡日調ヲ以テ當該支廠ニ通報スヘシ

第四十四條 彈藥ハ左ノ順序ニ從ヒ支給シ且ツ製造ノ舊キモノヨリ新陳交換シテ使用ス

一 軍隊、學校ヘノ支給ハ支須ヨリス

二 支須中ニ在テハ第一ヨリ第二ニ補充ス

三 支須ノ補充ハ本須ヨリス

要塞備附彈藥ニ在テモ亦本條ニ準ス

第四十五條 軍隊憲兵隊及屯田兵隊ヲ除ク、學校ヘ支給スル彈藥中左ニ掲クルモノハ材料ニテ支給シ其他ハ總テ完成品ヲ以テス而シテ材料ニテ支給ヲ受クルモノハ當該軍隊、學校ニテ填實シ完成品ニテ支給スルモノハ當該支廠臺灣屯在テハ北本廠ヨリ工廠ニ注文シ若クハ支廠ニ於テ填實ス

一 小銃空包及狹窄射擊實包

二 火砲用各種彈及藥包空包以上ニ點ハ學校ノ分ヲ除ク

第四十六條 彈藥ノ材料並屬品中左ニ掲クルモノハ當該支廠、軍隊臺灣屯在テハ兵工廠、學校ノ管理費用ヲ以テ調辨スヘシ

一 小銃空包用填綿

二 狹窄射擊用鉛彈掘揚彈ヲ應用シ能ハサル場合

三 海岸砲用空包藥囊、彈底支桿

- 四 爆包並擬放火用藥囊
- 五 騎兵用火具中ノ麻絲、摺附木、油紙
- 六 正午號砲用紙藥囊

第四十七條 憲兵隊及屯田兵隊ニ在テハ前二條ノ規定ニ據ラス總テ完成品ヲ以テ支給ス但シ山砲用各種彈並爆包及擬放火用藥包ニ限リ材料ニテ支給ス

第四十八條 軍隊ニ在テ一時過員トナリタル者、六週間現役兵ニ要スル彈藥ハ當該軍隊演習用定數内ヲ以テ應用スヘシ

第四十九條 平時ニ在テ准士官、下士、兵卒並見習士官、諸生徒等ニハ第十一表ニ掲載スル携帶兵器ヲ支給ス

第五十條 演習用彈藥ハ第十二乃至第十四表ニ掲載スル員數ニ基キ支給ス

第七章 返納

第五十一條 總テ兵器ハ兵器表ノ定數ニ超過スルヲ許サス故ニ過數トナリタルモノハ軍隊、學校及築城部支部ニ在テハ支廠ニ返納スヘシ但シ軍隊及屯田兵隊ヲ除クシテ在テハ第十五表ニ掲クル第二、第三類兵器ニ限リ演習用トシテ同表定限以内ハ各管理費用内ヲ以テ保管スルコトヲ得

第五十二條 見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官及豫備後備見習士官並定員外見習士官ニ支給シタル刀、劍ハ共用ヲ終リタル後直チニ支廠ニ返納スヘシ但シ破損シアルモノハ當該軍隊テハ支廠ノ管理費用ヲ以テ修理ヲ加フルモノトス

第五十三條 小銃藥莖及螺門管ハ每演習ノ終リニ必ス之ヲ洗淨シテ外ハ雷管ヲ拔除シテ毎年十二月ニ定數ノ六分一ヲ返納シ交換品ノ支給ヲ受クルモノトス

第五十四條 小銃藥莖及螺門管ヲ返納スルニ方リ定數ノ百分十單發銃用藥莖ニテ減耗ノ定限トス之ヲ超過スルトキハ當該軍隊、學校ノ管理費用内ヲ以テ補充スヘシ但シ臺灣屯在ノ軍隊及屯田兵隊ニ在テハ軍隊ニ於テ補充スルコトナク隊長ノ理由書ヲ添フルモノトス

第五十五條 空火藥箱及火具箱ハ格納シ置キ適宜ノ時期ニ於テ軍隊、學校ニ在テハ支廠ニ返納スヘシ

第八章 毀損亡失及廢兵器ノ處分

第五十六條 總テ兵器ヲ毀損亡失シタルモノハ左ノ二項ニ據リ處分ス但シ其事由避クヘカラサルコトニ起因スルカ或ハ公務執行中ノ過失ニ係ルモノハ此限ニアラス

- 一 毀損シタル兵器ノ新調ヲ要スルトキハ新調代價ノ半額毀損品ノ相當品ノ修理ニ止マルモノハ修理全價ヲ補償セシム
- 二 亡失シタル兵器ハ新調代價ノ半額ヲ補償セシム

一年志願兵ニモ亦本條ヲ適用スト雖モ一年志願兵條例第四條ニ該當スルモノ、外ハ各自ニ支給スル携帶兵器ニ限リ其事由ノ如何ニ拘ハラズ補償セシム

第五十七條 毀損亡失シタル兵器ハ左ノ各項ニ據リ補充ス

- 一 第一類兵器ヲ亡失シタルトキハ第三十九條ニ據リ代品ノ支給ヲ申請ス此場合ニ在テハ支廠長ノ檢定書ニ保管者ノ理由書ヲ以テス
- 二 第二、第三類兵器及彈藥ヲ毀損亡失シタルトキハ第二十七條第一項及第二項、第二十八條第一項並第三十條ニ據リ新調若クハ修理ス但シ第一類兵器ニシテ單ニ修理ニ止マルモノモ亦本項ニ據ル

- 三 臺灣屯在ノ軍隊及屯田兵隊ニ在テハ前二項ニ據ラス其代品ヲ要スルモノハ第四十二條ニ修理ニ止マルモノハ第二十九條及第三十條ニ據リ取扱フモノトス

第五十八條 兵器ハ全ク其用ニ堪ヘサルモノニ非サレハ廢品ト爲スコトヲ得ス
 第五十九條 不用並廢兵器ハ總テ本廠若クハ支廠ニ於テ賣却スルヲ法トス然レトモ廢兵器ニ在テハ軍隊、學校及築城部支部ニ於テ賣却スルコトヲ得此場合ニ在テハ豫メ當該本廠長若クハ支廠長ノ檢査承認ヲ受クルモノトス但シ第一類兵器ノ廢品及不用兵器ノ賣却ハ本廠長之ヲ陸軍大臣ニ上申シ認可ヲ經ルヲ要ス

第九章 要塞備砲使用手續

第六十條 要塞砲兵隊及警備隊ニ於テ諸演習ノタメ要塞ノ備砲ヲ使用セントスルトキハ當該隊長先ツ保管者ト協議シ砲臺ノ名稱、砲種、砲數、使用ノ目的及時日等ヲ詳記シ管理官ノ承認ヲ經テ該砲履歴表ト共ニ當該支廠ヨリ借用シ使用後手入ヲ爲シ一週日以内ニ砲履歴表ヲ編纂シ備砲ト共ニ支廠ニ返納スルモノトス使用中ニ生シタル破損ノ補修及使用後ノ手入ハ總テ當該隊長ノ責任ニシテ其費用モ亦該隊長ノ管理費用ヲ以テ支辨ス故ニ支廠長ハ其修理手入法不充分ト認ムルトキハ之レカ修理若クハ手入ヲ隊長ニ要求スルモノトス
 要塞臨時防禦用火砲ノ使用手續モ亦本條ニ據ル

第六十一條 前條ニ據リ備砲ノ受授ヲナストキハ支廠長特ニ精密ノ檢査ヲナシ其受授ヲ明カニスヘシ且ツ要スレハ隨時之レカ檢査ヲ施行スルコトヲ得

第六十二條 學校其他ニ於テ要塞備砲ヲ使用セントスルトキハ本章ノ手續ニ據ルモノトス
 第十章 赴任ノ際佩用刀取扱手續

第六十三條 支廠及分廠ニハ赴任用刀ヲ備フルヲ以テ准士官以下赴任スルトキハ兵器委員官衛ニ在テハ該官衛支廠若クハ分廠ニ赴任用刀ノ支給ヲ請求シ之ヲ佩用赴任セシメ著任ノ上ハ兵器委員官衛ニ在テハ該官衛若クハ分廠若クハ交換方ヲ請求セシム但支廠或ハ分廠不在地ノ軍隊、官衛ニハ支廠保管ノ定數内ヨリ赴任用刀ヲ適宜分配貯藏セシム

第六十四條 前條ニ據リ兵器委員若クハ支廠或ハ分廠ニ交換方ヲ請求スルトキハ新官ニ相當スル刀、劔ヲ支給シ赴任用刀ハ直チニ返納セシム但シ軍隊、學校ニ在テハ更ニ兵器委員ヨリ當該支廠若クハ分廠ニ返納スルモノトス

第六十五條 支廠若クハ分廠ニ在テハ毎年五月、十一月ニ於テ赴任用刀ノ員數ヲ調査シ過數ハ之ヲ本廠ニ返納シ不足トナリタルモノハ支給ヲ受クヘシ

第六十六條 中央幼年學校、教導團、要塞砲兵射擊學校及砲兵工科學校保管ノ赴任用刀ハ生徒卒業赴任ノ際之ヲ支給シ著任ノ上ハ支廠ヲ經テ原所管ニ返送ス

第六十七條 軍隊保管ノ士官候補生赴任用刀ハ士官候補生士官學校分遣ノ際之ヲ支給シ著任ノ上ハ該校ニ預リ置キ卒業歸隊ノ際本人ニ支給ス

第六十八條 准士官以下刑期滿期、無罪免訴等ニテ原所管ヘ復歸ノ際刀劔ヲ要スルトキハ當該官衛ヨリ支廠ヘ照會シ之レカ支給ヲ受ケ本人ニ佩用セシメ復歸後ノ取扱ハ第六十六條ノ規定ニ準據ス

第六十九條 准士官以下分遣中死亡若クハ其他ノ事故ニ據リ攜帶ノ兵器ヲ原所管ニ返送スルヲ要スルトキハ第六十六條ノ手續ニ準據ス

第十一章 雜則

第七十條 一年志願兵ニ支給スル兵器彈藥ヲハ當該軍隊用ノ定數内ヲ以テ應用シ演習用彈藥ハ第五章ニ據リ新調ス但シ一年志願兵條例第四條ニ該當スルモノニ要スル彈藥並各自ニ支給セサル砲兵彈藥、工兵用火具等ノ如キモノニ在テハ一年志願兵ノ種類如何ニ拘ハラズ當該軍隊ノ演習用定數内ヲ以テ應用スヘシ

第七十一條 學校若クハ官衛ヘ分遣中ニ在ル者ノ攜帶セシ兵器ノ新調、修理、手入並第一類兵器ノ交換ハ當該學校若クハ支廠保管ノ兵器ニ準シ取扱フヘシ

- 第七十二條 軍隊、學校ニ於テ測腔機ヲ要スルトキハ支廠保管ノ分ヲ請求シテ使用スヘシ
- 第七十三條 士官學校演習用彈藥中海岸砲用彈藥ノ受授ハ横須賀支廠ニ於テ取扱ヒ輸射砲ハ同支廠保管ノモノヲ請求シテ使用スヘシ
- 第七十四條 各種砲彈丸ノ帶脂ハ當該支廠ニ於テ裝著ノ上支給ス但シ臺灣(送附スヘキモノニ在テハ之ヲ送達スル兵器廠ニ於テ裝著スヘシ)
- 第七十五條 平時使用セサル兵器ニシテ秋季演習ノ爲メ特ニ使用シタルモノ、修理手入ニ要スル費用ハ演習費ヲ以テ支辨スルモノトス
- 第七十六條 村田銃空包並同狹窄射擊用藥莖ハ薄口ノ分ヲ用フルモノトス
- 第七十七條 臺灣總督ハ事變ニ際シ緊急ニシテ陸軍大臣ノ認可ヲ經ルノ暇ナク兵器廠保管ノ兵器ヲ使用セシトキハ直ニ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

附則

- 第七十八條 要塞備附兵器ニシテ未ダ要塞司令部ノ設置ナキ場合ニ在テハ當該本廠長之ヲ管理ス
- 第七十九條 演習砲臺ノ未ダ完備セサル場合ニ在テハ特別ニ某砲臺ヲ指定シ所在地要塞砲兵隊及學校ノ演習用ニ供スルコトアリ之ヲ常用砲臺ト稱ス此砲臺ノ備砲^{射擊及觀測ニ要スル器具ヲ含ム}ニ在テハ當該隊長若クハ校長修理、手入ノ責ニ任シ該費用モ亦其管理費用ヲ以テ支辨スルモノトス
- 第八十條 基隆^{淡水}及澎湖島要塞備附兵器ハ當分ノ內當該隊長保管ノ責ニ任ス
- 第八十一條 新設増設ニ要スル兵器ノ配備ハ其著手順序表ニ基キ當該本廠長直ニ之ヲ執行ス
- 第八十二條 要塞所在地新設支廠設置ニ至ル迄兵器ノ取扱ハ當該本廠ニ於テ直ニ取扱フモノトス
- 第八十三條 當分ノ內臺北砲兵工廠ニ兵器彈藥費ヲ管理セシム故ニ兵器廠ヨリ請求スル兵器ノ新調及修理ニ係ル費用ハ徴收セサルモノトス

(附則略ス)

○陸軍部百二十二號

明治二十四年陸軍部百七十號中左ノ通改正ス

明治三十一年十二月二十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

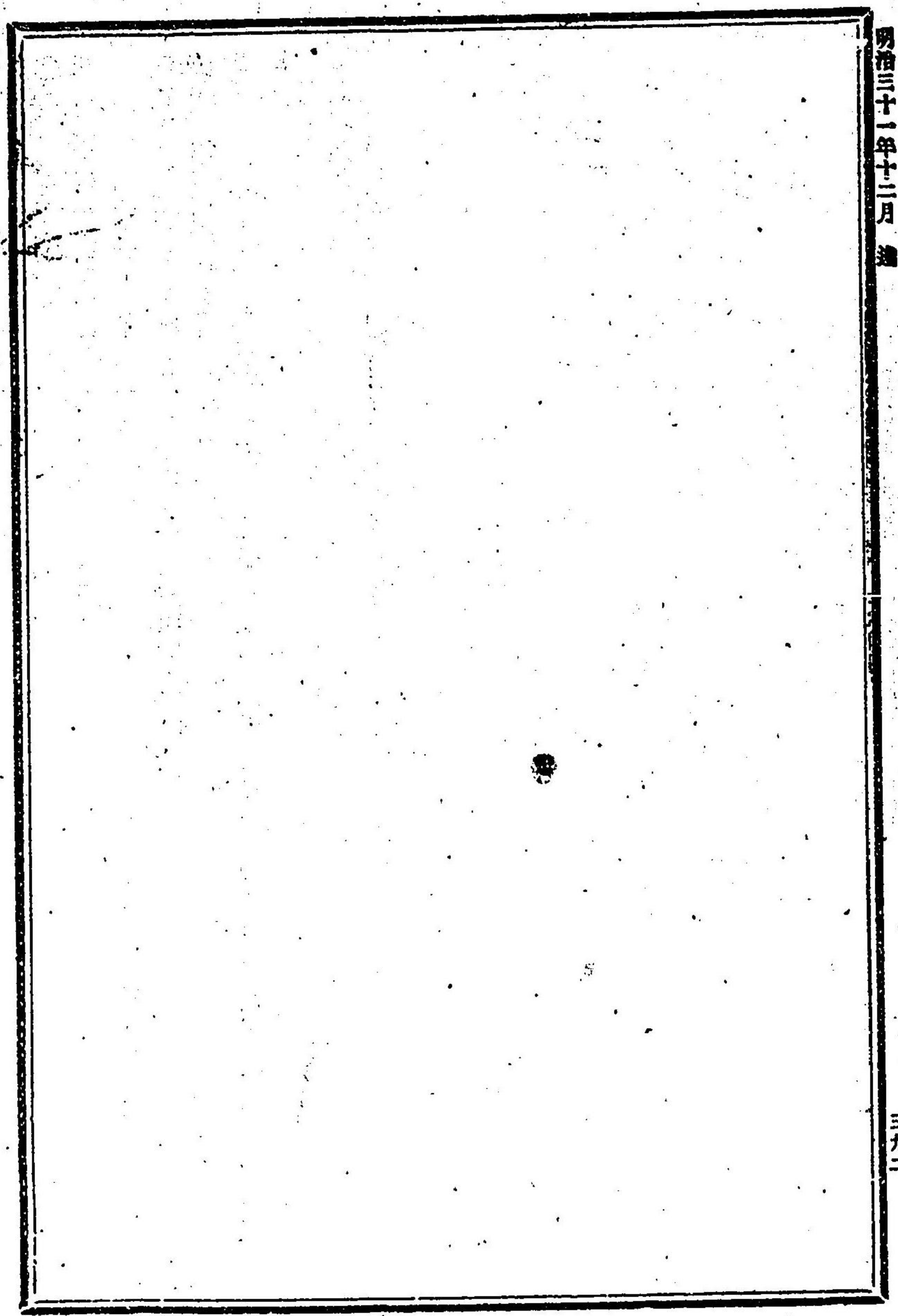
- 達文中「諸學舎」ヲ「軍隊」ニ改メ「分遣」ノ下ニ「派遣」ノ二字ヲ加フ
- 第一項第二項中「校舎」ヲ「校隊」ニ改ム
- 第三項中「入學」ノ下ニ「及分遣派遣」ノ五字ヲ「復歸」ノ下ニ「事故歸郷」ノ四字ヲ加ヘ「校舎」ヲ「校隊」ニ改ム

(參照)

明治二十四年四月二日陸軍部百七十號ハ陸軍部內陸軍學校學舎へ入學及分遣者ニ係ル俸給其他給與方ノ件ナリ

27

明治三十一年十二月



三九二

